都名所圖會

後玄武
再刻

六

ル 4
4598
6

門 號 4598 卷 6

都名所圖會卷之六目錄

後元武

早稲田大學圖書館 昭和 35.1.28 受入 藏書

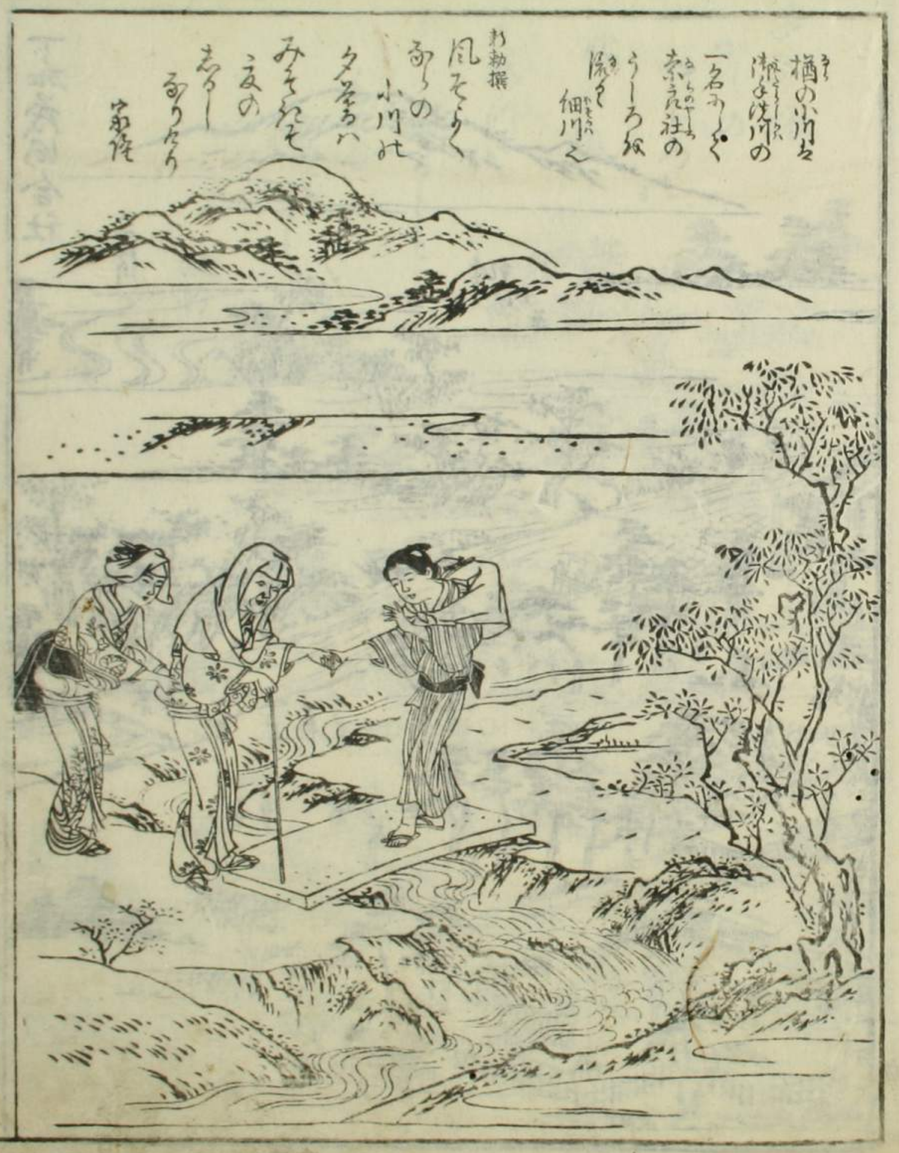
早稲田 下加茂

河合社　御手洗川　紀川原涼圖
上加茂社　競馬圖　橋本社
本滿寺　松ケ崎　妙泉寺
幡枝圓通寺　地藏堂　市原小町寺　小町塔　少將塔
長谷八幡宮　八坪岡　朗詠谷
鞍馬寺　智辯水　僧正谷
竹伐岩　ふご坊ろし　貴船社　御船　龍王滝
大悲山　帆立石　西加茂
正傳寺　神光院　送火船
法義壇林　鹿ケ峯　源光庵
千束　光悦寺　題目堂

菩提瀧
紫野大徳寺
義経誕生水
今宮御旅
清和院
引接寺
北野天満宮
大閤茶湯旧地
金閣寺
芝宮池
双岡
御室仁和寺
印金堂
岩屋山
今宮社
舟岡山
金山天王寺
立本寺
轉法輪寺
内野遊女町
願成就寺
衣笠山
龍安寺 髻髻
兼好古跡
花盛圖
泉谷法藏寺
小野道風社
冠石
やとゝゝ祭
常盤前古跡
雲林院
蓮臺寺
紅梅殿
七の社
燈魔堂
釋迦堂
七本松
芝居
東向観音
新向松
平野社
紙屋川
鏡石
等持院
真如寺
妙心寺
法金剛院
西光菴
大内山
嗚滝妙光寺
西壽寺
般若寺

六ノ

三宝寺
梅畑善妙寺
清瀧川
五智如來
柵尾專山寺
地藏院 紅葉名所
宅魔塚
平岡八幡宮
槙尾西明寺
高雄神護寺


右勅撰
風そよく
ふるの
小川は
夕なみの
みそぎそ
こゝの
ちはし
ふりにし
家隆

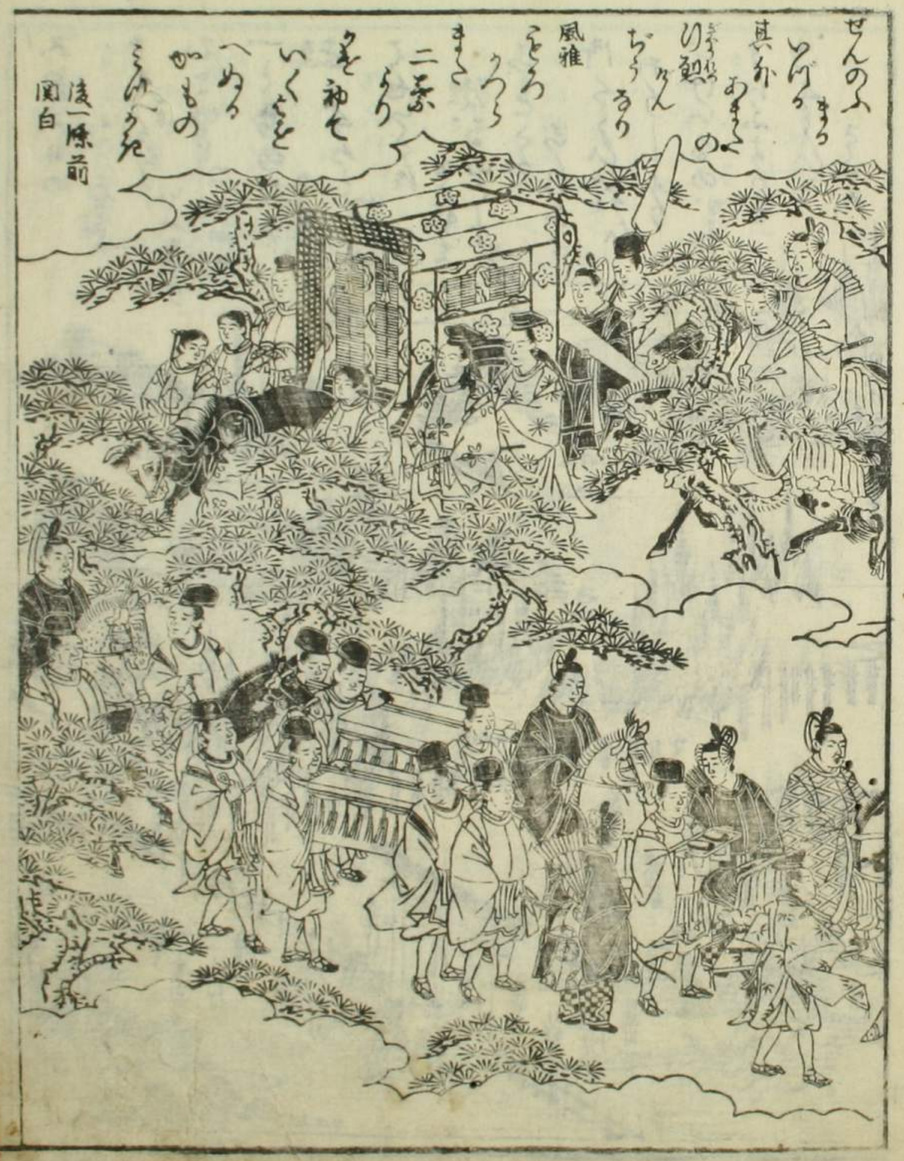
下加茂の合社
紀川
所社
三源社

千早振
かもの
やしろの
姫小松
千歳の代
みるも
たのもし
敬り

下加茂所社

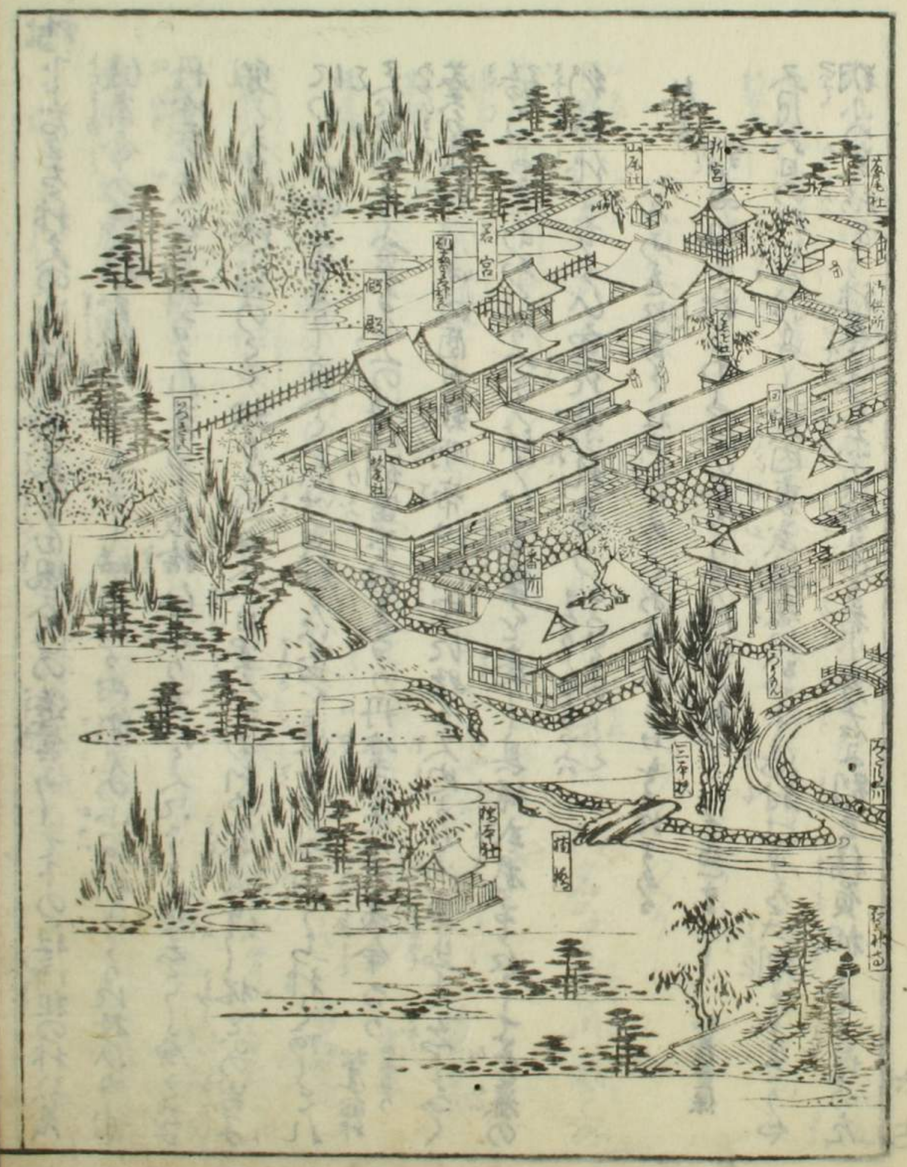
きくこひふ
ねむ
ちゝ
を
をみ
まさる

加茂の
やしろの
みくしげ
定家



白八けい
はなぶさ堂

石日社



上加茂社

賀茂下上皇太神宮の御社八天武天皇白鳳元年の造営なりて下の社に社の神八賀茂
健角命の御娘玉依姫みくしげ殿にあり神武天皇の御母なり
丹塗の矢に成りて川をくだり来りし紙捨ひろい取れる人にさし置たる
卵とりて納ふ程のくに紙をうけぬる人一日置人をあがめ寄紙にて板をの男子
にあらん人ぞ父なきこゝのみくしひけ世ゆゑに盃を盛事ふるげうち神とかのくそれ
天に昇りぬ命なん上の古社別雷太神と云事なり丹塗の矢八大国命なり 松屋筆記
葵祭八卯月中の酉日欽明帝の御宇に始る大内より御車出て行幸なり
騎るみくあひひろうに紙うけまゐ事を奏し其儀式厳重にして美麗の
紙糊他にすぐれひ面紀祭礼なり

みあれ 新古今

みあれし神よあふひのかりせはのふ敷とりけそるまし 加茂重保

又月又日の競馬いあ〳〵大内裏武徳殿にかく騎射すみさし例とするとや
朔小八豆粥あり神友達に素麺の粉麦を着し左右み別を猪頁相とそ場の左

あり是より中ゝ落ゝ祭神れるゝ紙屑ゝ長月十九日ゝ晦日ゝ云ふ或説援
ゝ御先川は通ゝ法人を妻するゝ晦日みハ上賀の神おおいて猪乐あり 新古今
競みあれとりけみくしの面ふうる斗れ〳〵をし祇

ひこの八かゝ義ゝりてゝゝゝ人の美にゝ人〳〵ゝゝゝ
日義山二葉山上賀神殿の東ふありて御生山社別名ゝ石川潔ゝ人の
小川賀の社川ゝでハ皆みゝゝし川をゝゝゝゝゝ
続古今 君の代も栽世もはゝ紀しゝゝ川やせゝれ小川の絶しとゝゝハ 鎌倉名所
家集 除雪ハみくし川ふ新ゝ人て完にゝすゝゝゝゝゝ渓乃紀 定家
続後撰 さゝ社ゝゝる賀の社川のその上をゝゝ人ハ久し世くのゝ川ゝさ 前大僧正
君ゝ賀の社ハ往古和歌ゝ二神ゝも業平實方の化現ゝゝゝゝゝゝ云ゝ人
古紀ふいゝく平安の京八百年不易の都ゝり京に厳神ゝゝり西ゝ猛ゝ紀
あゝく別歳神八賀ゝ神ゝゝり猛ゝ八松尾の霊社ゝゝり二神の鎮護ふ
ゝゝく第代平安の福を蒙ゝもゝ御神の威徳ゝりとゝ

松ヶ崎
寺通寺

日蓮滝
妙泉寺

松濤寺浦寺は開基日生上人なりして日蓮宗派なり。天正年中に法華園純
の学室とする妙泉寺は日像上人
毎年七月十六日堂の十人ゆて山里の老若男女うち立り頭目ふり狂
ひけ舞ひ狂ひしく柏子とり踊り狂ひ夜明
名ふるし其夜うしろの山ふれいとく妙法の二字を焼出に成し天
金の送火とそなるなり
御菩薩池は幡枝村にありて傍ら地蔵堂あり平相国清盛の代西光
法師ないとるみし少年を六地蔵堂なりの其一なり
京の普陀洛寺はいみしへ清水書写の幽棲しぬ所なり森地は
丑寅のくらゆて堂の若とて人後白川上皇大原の女院と訪ぬ
所以通り普陀洛寺小御幸の道あり庭に小弥小町四位おは
の墓あり所る人京原聖成毎年しにとそ一むら生るゆけうり
秋風の吹うにけてもなるめく小野小町はいとて落れひろり　小野小町

市原小野寺

小岩藏大空寺は天台宗にして本尊は聖観世音の像なり行基乃他
しるべ拵けるのそしめは王陳の小社宮ふ宗をのたるびく所あるる凡人是
をあやしむ云よりて勅使として右近衛中將何某殿なるしめ
ぬふふけふれ顯るり勅使不思議ふもひぬふるる思ひしてのしらり
雪殿ていそるる老尼現ひ曰此地は高貴観世音降臨ひ給地之又ある峰ふ
いくふ異香四方に薫じる霊嶽あり是を窺見まい者樂を奏して
其中より観世音ひ光明赫々ふ出ぬ地ふ仏盤とうて
ぬひて行基ひ彫りぬひし尊像殿本尊とるる大きるひ額は詔ふ
佐理卿筆殿深ふ書ひしるり今本堂に用基は省略仮書出ひ又ひ
を石藏とるびくるるは詔あり云ふ殿の四方に石藏といふみ経王
を納めらる其為りる石座明神まし西に是石彫ひ
八鹽開いむ一地ほくの根茂りて秋のる人紅葉とるる習錦を翻ふ
るるび今は小の尾侍ふ小ひし狩る

本堂

北岩倉大雲寺

八鹽岡

長谷八幡宮八惟仁親王の勅願所之長谷花園中村之郷の氏神にして祭八八月十五日神輿入基あり

朗詠谷八大納言公任郷の幽居しなり舊紀に所八長谷川を隔て小のくるる山中に入る古城又六町ばかりこれ有るを解脱寺と云ふ四地あり今ハ礎石のこるあれ抑ハ公任郷生家しなりしなりと是を一町ばかり小ゆれを平地あり彼郷ハ所ニ住ゆゑ和漢朗詠集撰しゆゑ又沖所谷ともいふ

世をそむきて長谷ニ住ゆゑ此入乃中ねのとやまり

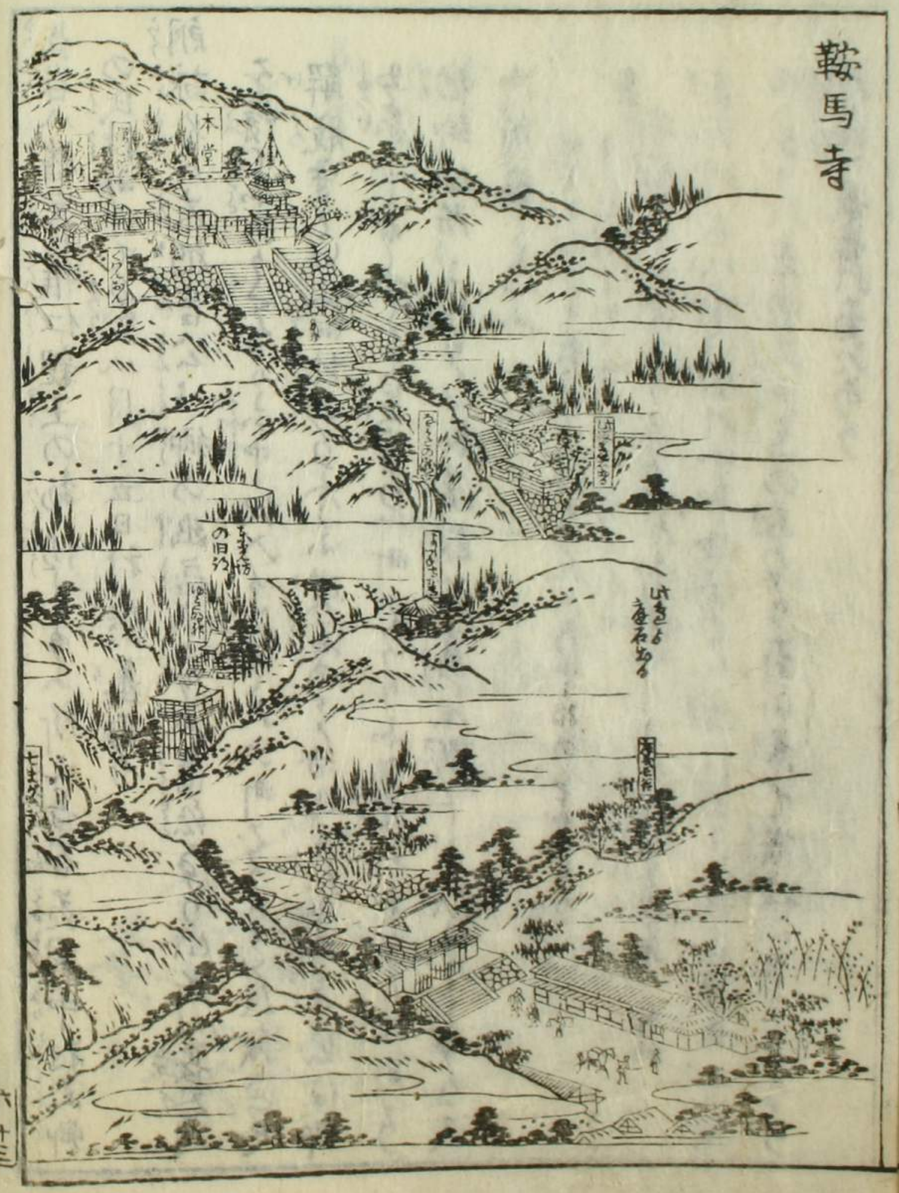
長谷風ふるれば入乃谷川流れ出く長谷村の中城

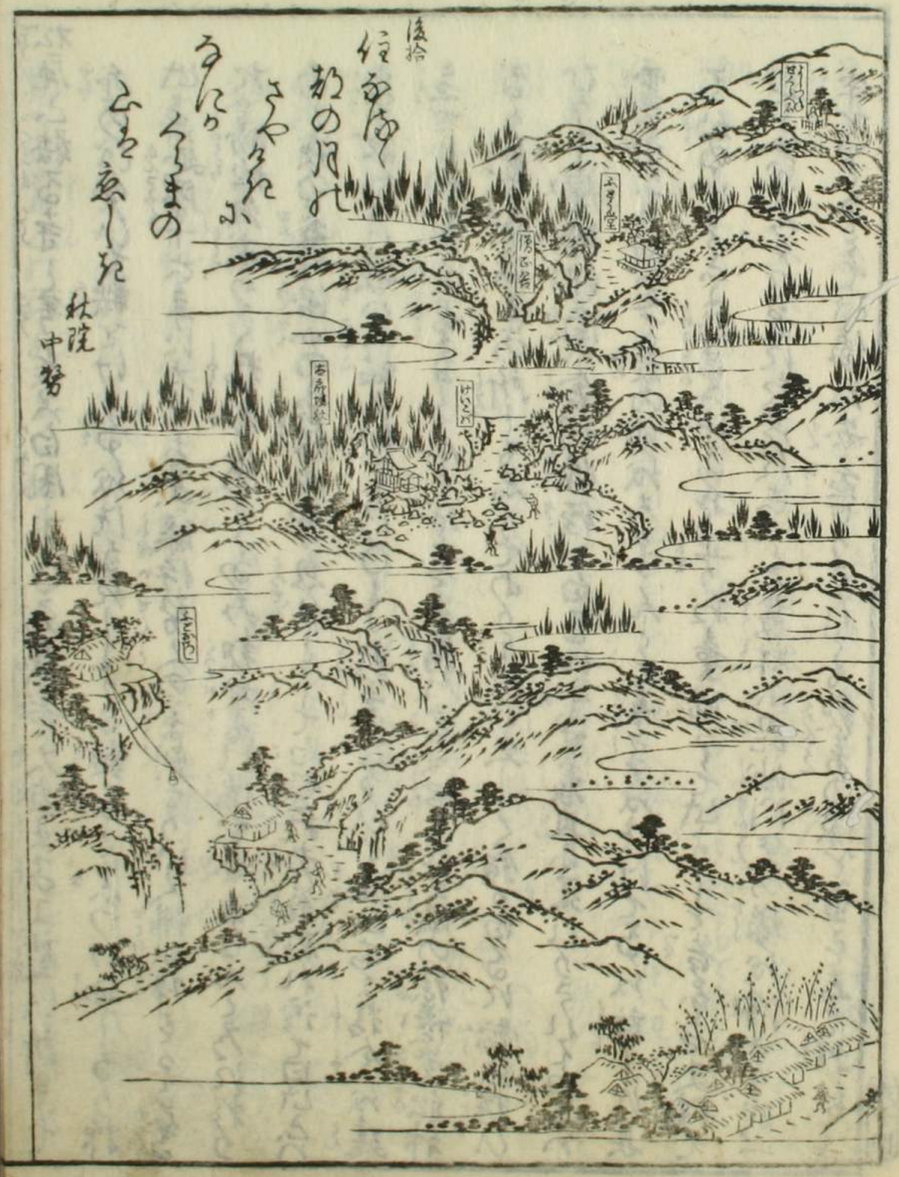
西へふゞれ岩金大きるの南ふ嶺て幡枝ふゞるゝ

花園八長谷花園にあり

公任

鞍馬寺





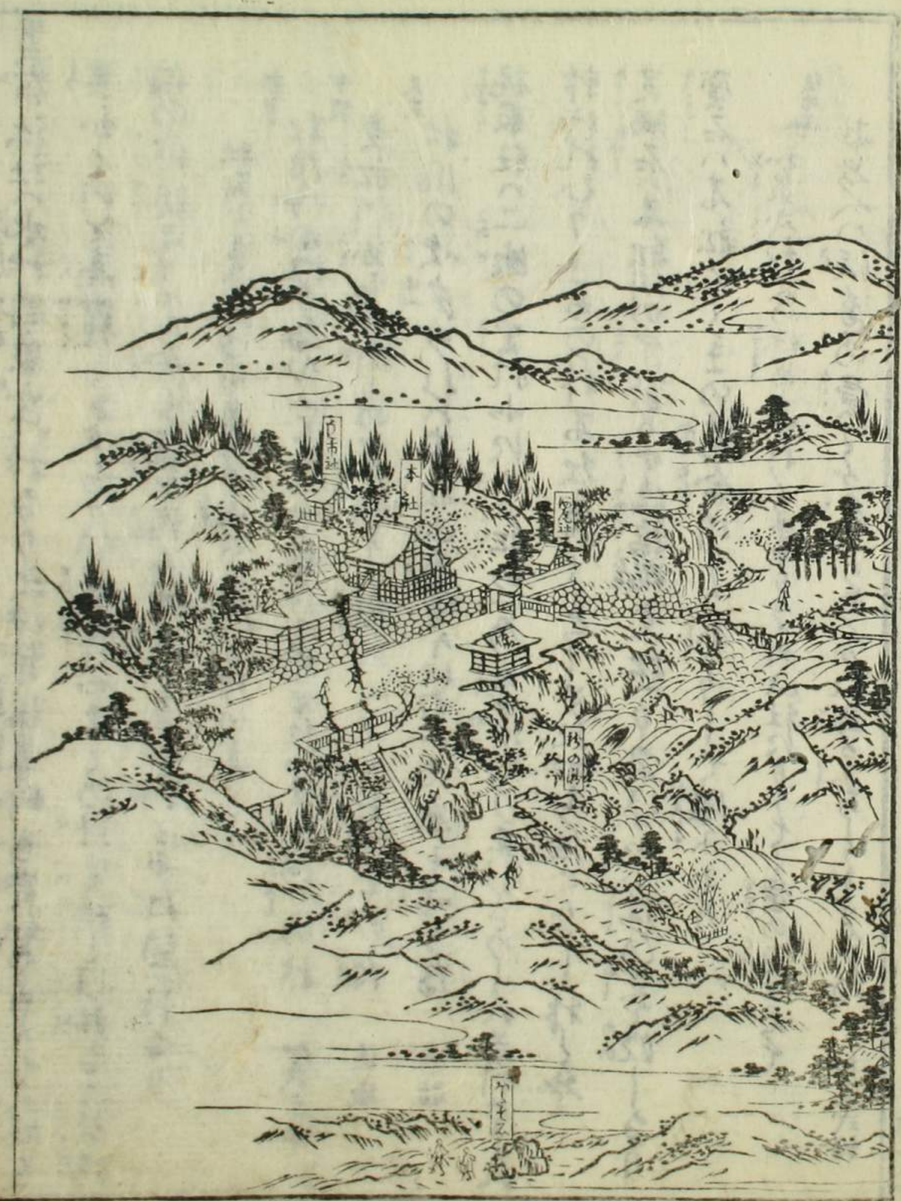
松尾山鞍る寺と号する八白風十一月天武帝大友王子と戦ふ所にて
延のびのひて鞍をけるる仏はるしより鞍るとなつけ初しるり拝
さちの延暦十六年に大中臣藤仲勢人の発創なり山人佛ふ帰をるる者
たぐ勝地仏求めく精舎仏ひしるみ観世音菩薩像を安置せんと為に祈り
ある夜の夢に洛小の山影ふ現れ告て曰く山人
天下にとくれ敢い山鉾ふ似くけ〇り彩雲たなびく海山ふ精舎仏建
立せい利益無量なるうんと我を去れ名仏宮しに王城の鎮護共紀祈
るり夢覚て仏主の所とも為しでありれ久しく解る白るに鞍仏粧ひ
むり〜摩勝法蘭ハ舎利像経を白るに祭せ表具ふ来れりされ白るハ
霊蓋なり汝定て夢の地仏為らんと考る仏はけてる仏敬しに真
る初の小なる山ふ弘茅ヶ中ふ移を止りれ童帰まて山ふしを告るを主仏て
其山仏入るに夢にたがはた志りを叢林ふ毘沙門天の像仏浮ぶり刻一
宇をいとるをそさ仏安置せりさしも観音の像を置とまて祈ひまで

とげざるよとそ又其い夜の夢に天竺来りて曰汝多門天ヶ像仏作く
観世音と祈ふ庶幾観音と多門天ヶ名ハ異なれども同一浙なり覚て後
預ひ今い元りと勧奉せり又一宇仏いとるをそ観音を安置仏今
の西ヶ観音院ふ是なり正月初の寅の日法人辞泰をるるハ毘沙門天
十種の猛とあるふ人拝ふ祈あるて賢人なりの人拝ヶ利益ふ虎乃子を
踏る勢を縁よとりて山日来るなり　六月廿日の祈代しるハ者所ヶ信
人本堂と西の観音堂に集りて一夫なりある青竹仏双方に立を石本
堂ハ近江方観音堂ハ丹波方とる別け一山の院流法延を信しまに相
別ヶ夢を合せかの竹を三度ふ振ふなりて堂をなり一の曲切石ヶ足り
仏せく立りゆく早と勝とするを山来由ハ往昔南紀招提寺の鑑真僧正
山ふ分入れしに雌雄の大蛇あり〜ちまち蟠る僧正まぐるく招念
あり〜れハ二つの蛇忽ふ滅るり今一つふ白ひて〜人ようして〜人を照する
あく又當山ヶ用ある仏〜絶をるるをそて放やく〜をりそをとり

本堂は小さなる閻伽水溜くゝして浦出今にたゆるる迄ありし行とのの
絶ふるぞゝ人是ぞきりて麓に拝ゝるゝ故又夜に入く里れ俗を主人本堂
は中に座せゝ唐院院法力とん初数ゝ初活とるあるかの俗人ならもく
毘沙門天ふる仏告ゆゝり後を止ぐゝ舟ふも告ゆゝ人書ぬ不忘後のゆゝとも
名のかりに祝ゝてかゝゝ次
鞍明神いゝゝ岐の氏神ふゝて大門のうちみなり祭れるゝ所大已貴命
一座ゝう朱雀院の御時天慶年中に勅諚ある由本ゝ号する事天ゝ
沙脇ゆゝひ世のさいゝゝれとゝ鞍を此社ふかけらゝゝり 例祭 九月九日
座石燒炭本芽漬八ゝ訴れ名寿ゝう羅坊ゝゝう修世ふ名ゝる
の林 座ゝ行ゝゝまれ山のうゝ楊ゝ枝ゝ初ゝ初ゝ 顯季
夫本ゝ是やこの書ゝゝ使ゝゝう楊ゝゝれふさけゝる定教
油中抄云 克孫楊八唐鞍れ克孫楊ふ似ゝれ撃ふ名ゝゝ
僧正谷ゝ遍金剛撃乃法ゝ伝ゝゝ人ふゝゝ

六月廿日
鞍馬の竹伐

僧正谷ゝそ
佗ゝらふ
見ぬく
僧よ
かんこ
ゝ
其角


本社
林の内
下宮

貴船社
おくの社
沈玉殿
日宮
川らさみ

貫布禰社は水神国象女れ神なり主伊弉諾尊軻遇突智をきりて三段と
真玉しかと高靈しそやけり山麓遠いやまとの丹生社と同新なり清流
俗の流遠ふしく今を雨と請ふ祈止るまを祈るあは山二神なり

社司ともきりふ糸りてあぢひせしはいぞふよあり

加茂宰平　松原海田れうあかぐろう世紀けて井せれ小ぢるほ二の神

千載集　貴船川玉ちる瀧くの岩波り氷柱くでく紅の影れ　後成

文本　秋風の吹夕ぐれは本紅山麓とにあげて麻ぞ吹る　成助

梶取社は二瀧の置れ小に老紅の一乃名居あり具ひくらくにあげめ

神代むし〜茅の神本紅ふれ〜多〜〜〜れ世ちり紅とり〜神〜紅

足洒石は本紅川の中にあり宮治橋姫老紅へりそ山ふ休ひ足を洗〜り

螢石は本紅くまの落合川より南ふ〜て壞ふあり

後拾遺　和泉式部　おもふへは沢邊の螢ものぐ身ろあ　和泉式部

後拾遺　奥山ふみたれりて落る瀧津瀧の玉散るとうり出るおりひそ　貴船明神

式部そのち巫をかくしひはりて世にる保昌のりにく社の

本法に立かくれ又ぶりしに巫とるりにてあるぬつ〜のと

りへは式部ふうち和めく

ふふ振神のふるめもそぐりや分とそひそ身をやけへさ　和泉式部

とよとこるりくれは保昌きくもあへど長ちれ優ふしてやさしくやすく

紅式部とぐてとるる紅瀧くあむすひ〜くるとり

晴部ふは貴紅山紅いふり日神紅ふ戸にありまし〜はたくれ世界悉く

くくやとこるる紅国ふといふ

・　梅花白ふくるるはくくあ山国に紅れとまくそあるれ　貫之

大悲ふはくくまれ遥奥るり花瀧祈　我ふ人別所村ふ立りて紀ちる堂あり

平相国清盛れいとるとこしとるり

毎年七月
十六日迄夫
くして松の
ゆくえ此を
地と乃ふも
そのゆゑあり
正傳寺
藥師山

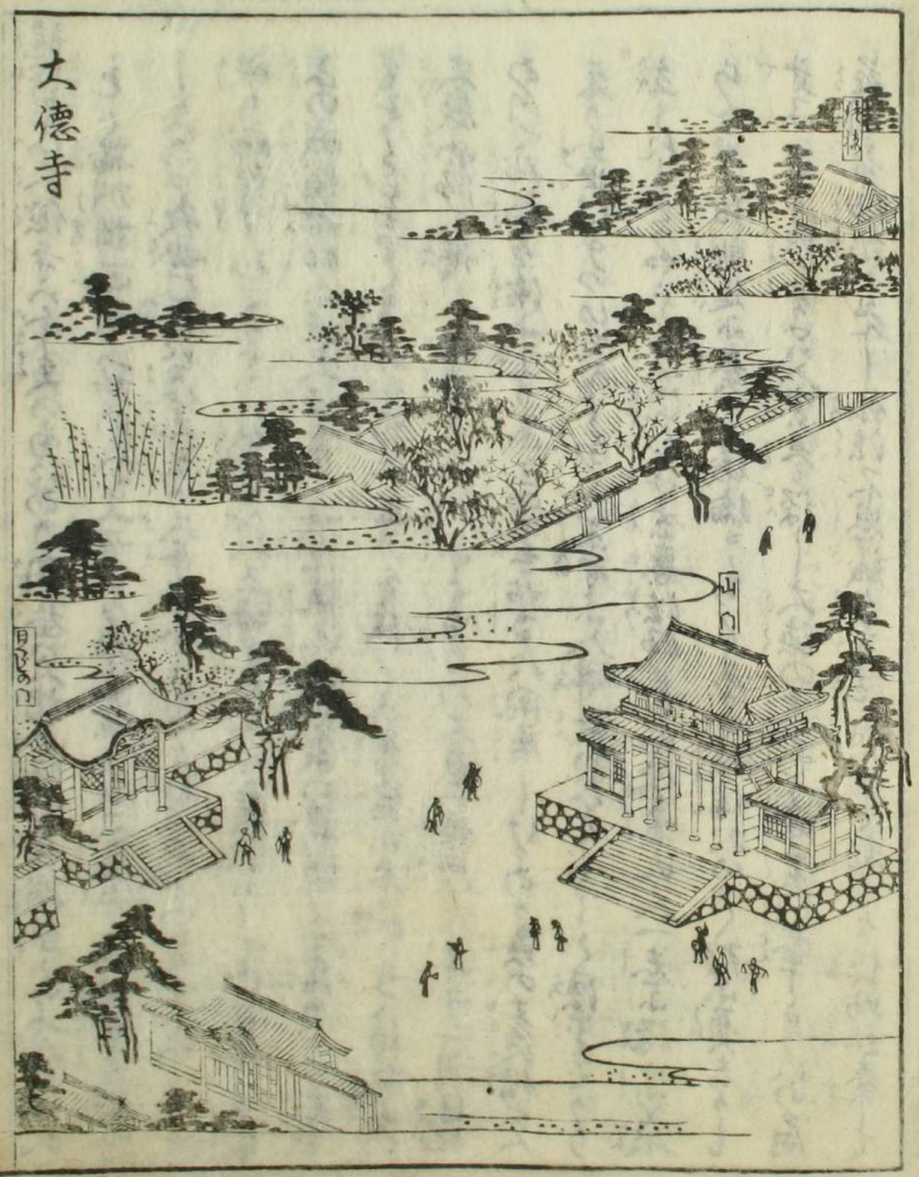
西加茂
靈源寺
神光院

山王門
天くらの滝
光明堂

雁鳥ヶ峯

岩屋山金峯寺は満樹院の小しあり本尊は不動明王とし山は古へ
某王菩薩現しゆへ霊場と開基は役行者と弘法大師なり
て峯は紙幅しゆへ所なり機敷嶽は岩屋なり一里ばかり小て
ありて惟喬親王樹墓とかるみぬし幽居あるし所なり
西加茂神光院は開基弘法大師ふしく自作の像弘安元年の像なり世に役除大師と称す本尊
愛染明王は弘法の作なり（丑れ年れ丑の日丑の日に生れ給ふ者は愛染を信ずべし法人釋氏記）
日所霊源寺は後水尾法皇の御願ありて開基は佛頂國師なり釋迦佛は自筆なり脇壇は
後水尾帝の聖像なり開山の像を安置す辯財天社（東福門院の御願）撞鐘堂（大仏殿金仏の御願なり）
吉祥山正傳寺は所なり禅宗なりて開基は東岩宏覚禅師なり
一ばかり楓樹多くありて紅葉は千枝爛熳なりて楚岸呉江を
ふくんでうつる
舩は送り火を忘れるのうしろはれなるあり例年七月十六日は盂蘭
盆所なり舩の形ふ火を焼き霊舎の送り火とする

薬師山は草堂をむすびて瑠璃光如来を安置たいあり（今廃）
厳重なりて傳教大師なりとなり
鷹峯峯寂光山常照寺は法華宗なり極林寺は開基は日乾上人なり
日源光房は祖宗なりて屯山和尚の開基なり
日光脱は法華宗なりて元本阿弥光悦の営し所なりとなり
大虚房とは羅山先生は菴の記をなり（羅山文集）
日蓮聖人奥あり常行堂日と唱へて踊なり
石門は峯ふにあり両岩あり其高さ数丈門を構へ似なり是と
霊嶽寺は石門とはむ園行法師入唐なり青竹なるの義なり
両部の密教を授て義和六年に帰朝なり霊嶽寺は開しなり
菩提滝は高峯なり一里ばかり西ふあり
小野道風は滝やし流は板坂とは人所ふあり山所の氏神なり
冠石は東河内の中ふあり冠の形なれば名とする


大德寺
山門

方丈
法堂
佛殿
鐘楼
経蔵
梅林

龍寶山大德寺は今文の西にあり開基は大燈国師と称ぬ始て紀氏
を播州揖西郡に訪の人と母子なりしが玄旨山の執世者に祈り
しかるに夢に母に告て曰汝の子又菜を乞て食すと云て又菜を
好りぬ始せ給てこれ骨そびえて眼光かがやき異形にして十一歳にて写
山の戒信律師に従て経書を読九流二教百家の異道まで究めいまだ髪を
もそらざるに京師相模小路に行くの客宿に参向して後建仁の
大庭国師に謁し悟道す其門子となりぬ大永延慶元年十二月に遷化
あり人ぬ始て洛に上り東山の雲居寺に閑居しけるある夜の夢に仏天人
来り出世せよとのたまひそなぐるあり依て京都に入佛教ひろめ
給れしとかやさて又洗心寺を建て惠法師長伴儒者九人一志に禄宗を破
らんとて紙朝廷に奏し議論ありて法儒れのくぞ負ぬ
寺を建て法の方丈を建て禅菴と号ぬ有て
花園帝ぬ始と名へし仏法不思議なる王法尊生勅をくだしぬ始奏して

王法不思議なる佛法對坐なる勅答せられしかの後醍醐天皇にてより
いよいよ深く厚も授機頌紙衾帛に拝し興禅大燈国師と號を賜ふる
正灯国師と号を加へ給ふ延元二年丙寅十六日遷化と号す
佛教ひろめ釈迦佛と本尊にして梵天帝釈天遊摩臨御の像紙安置
菴ふい大燈国師の像あり其外花園院後醍醐院後土御門院
きし法皇大庭国師の西像も備ふあり
真珠庵は一休和尚山ふる住居しひしと孫庵と一休は堂紙深の
額あり庭ふ雪ふる和泉式部の歌ふ和泉式部の宅地なりしとい
當寺の伽藍は赤松因幡守じく則祐拝石の料紙あり山門は三ヶ宗匠
宗長候造し閣は千利休方丈門は明智光秀寄進なりしとい
むかしは紙は今文大法もれやしら紙いふなり
祝儀ふ祝とも書紙ふ祝ふ小野ゆき宗祝り祝を唱ふ　左上天皇
法人のかたしてかんあり上ひ茶むさ紙は神みそみさりるる紙　義昌

今宮社

今宮の
あらまつ
きし
はるか
こなの
宮古み
やしろ
さく
めり

坂東長紋

紫野今宮

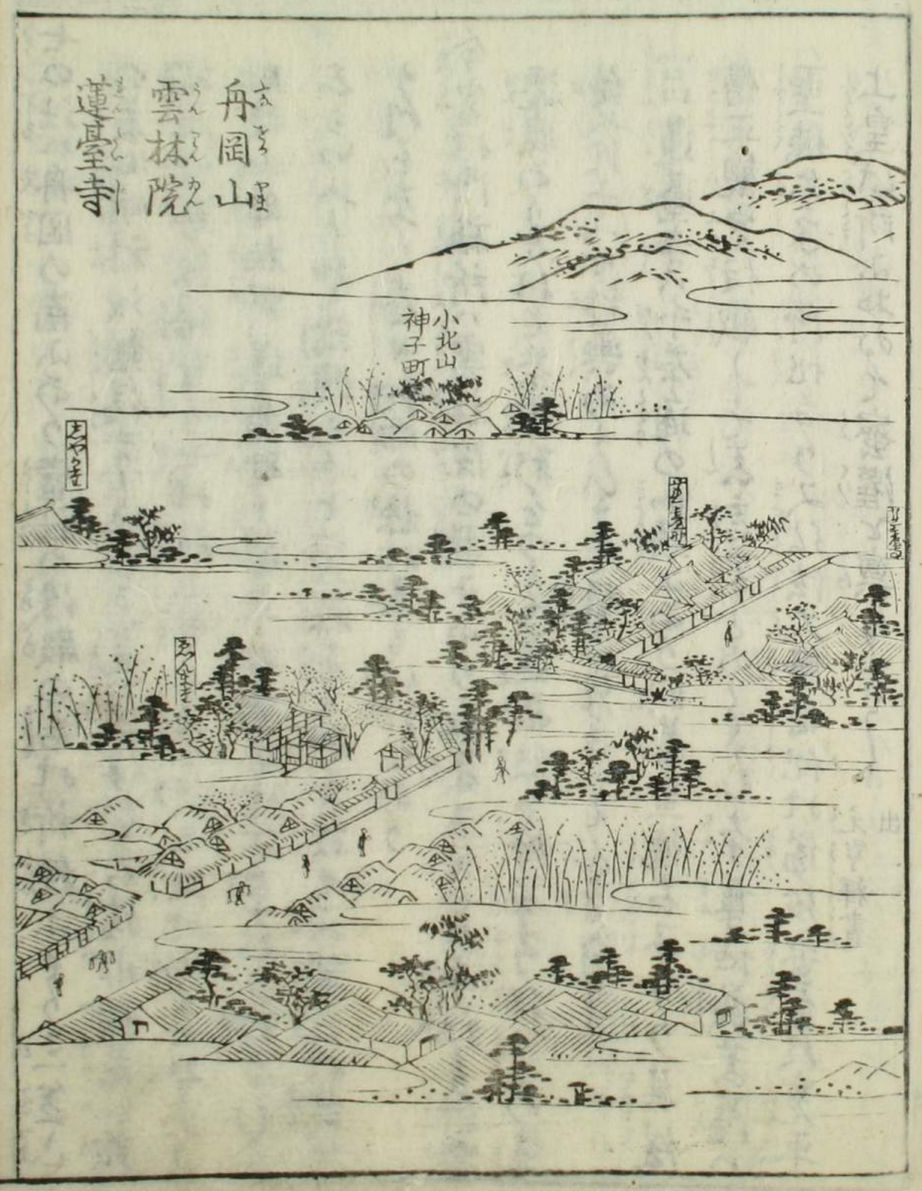
三月十日

やすらひ祭

當所と
かゝ歳乃
人〻社内と
やすらひ
やすらひ
花よと
さゞら
たいまつ
神輿
いさめて
疫癘と
さゝら
うち

今宮社は紫野にあり疫神社は一条院の御宇正暦元年六月廿七日北野に上
ふはりて七々の祟告ありて長保二年六月九日に所ふうして今宮と
あがめられ今は牛頭天王と勅諚して二座なり
白拍子とうみくくしなどうたいそめしは 藤原長能
弥生十日ばかり夜頃禮まいりそかの義上皇は黒人烏帽子素襖のうの袋
をかうとうげ笛を吹鉦鼓をあしき社をめぐりくやとくひをとなへ
みな玉陽の節にのるなり疫の神を散ぜんと悪霊を鎮ずるの法なるかの義今宮の祭礼
名を神とうを供をとりみな既に神遊の法なるかの義今宮の祭礼
気をうごめかして踊をうたいなるなりやさるゆゑに既に法花会にもとうり
たそよとくやせとうの時ようやすくひをとうをひをとうんともよ法あり
御寄合の文月十五日七夕の七日に牛を船岳山の東なる法蔵寺へうつし行る
常盤の高辻義経誕生ありて今宮の東大通寺に隠れ侍ふなり左義朝は別離と
考証は系ちに侍て未治元年に生れ九歳なりしとなり

舟岡山は紫野北西にあり舟は形ふねに似たりとせり應仁年中山
に紫野城をまへ細川山名は西陣を構敷度合戦ありしと
新参まいりて朝ふまりなり 鹿苑院位さりあひて後永恩ふ子日しのひなり
衰なりむしれ人をうへ人あいきのこの形ふみのなせるや 二条右大臣
拾遺抄 舟岡は舟中ふたてる女言花渡さぬ人はあるしとそなふ 後人名尼
雲林院は紫野にあり淳和帝の離宮なり仁明天皇は淳子常康親王
これを傳へ領しあり其後天暦帝の御時僧正遍照を別當
補せられ堂塔叢立あり遠られなり今は雲林院と唱て山なりの
郷名とする旧跡絶ふのこるむしい撫の名所なれを和歌ふ
雲の林と詠る
今ぞ知る雲の林の星ひとで空よみぐるく蛍しなり 紘信
うへの御のこしも花をんしをを林院よまりなふ
浦山しき雲の宮人うらもれてをのゝおるる花をうらん 良選法師

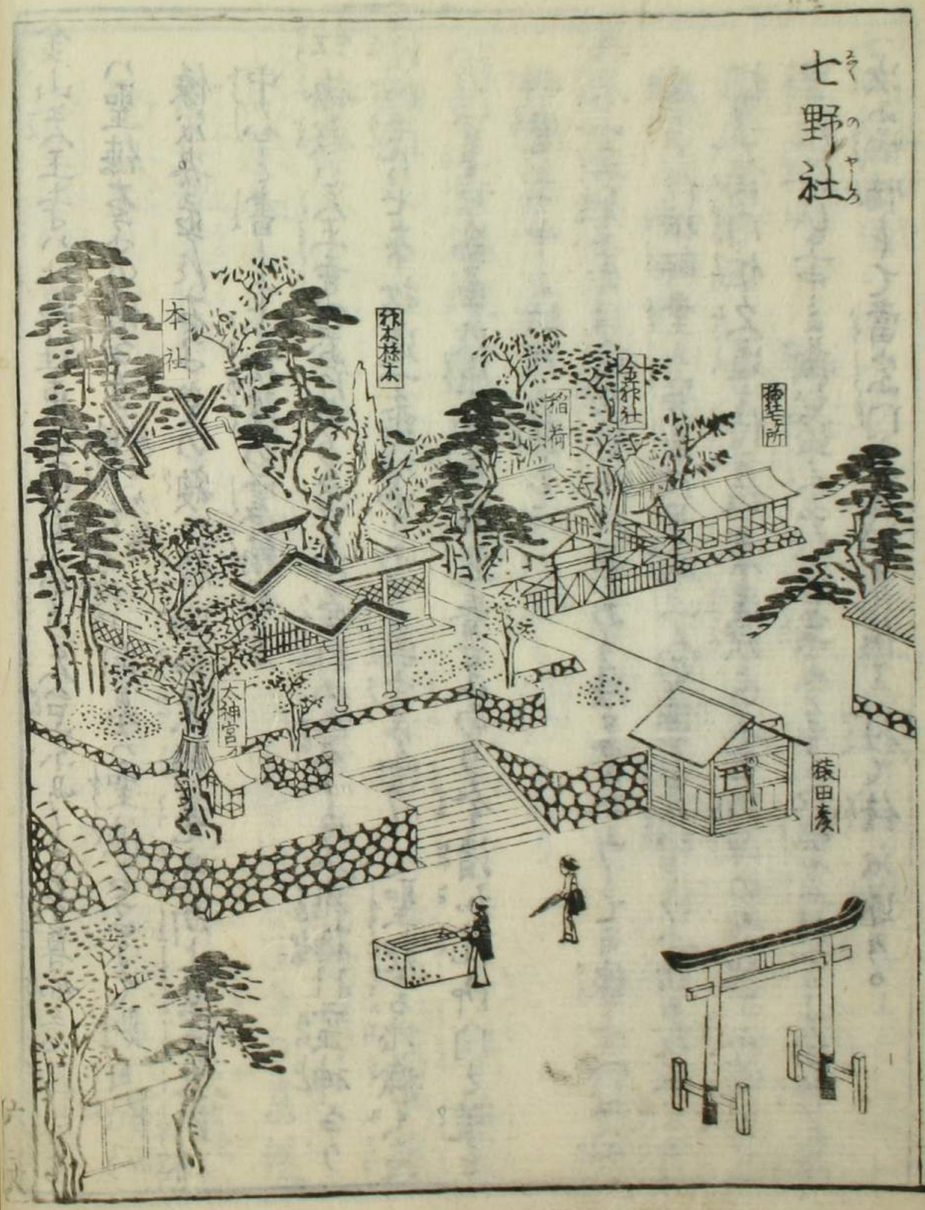

丹岡山
雲林院
蓮臺寺
小北山
神子町

七の社は舟岡の南にあり當社は深殿の后は祈願ふかりこと笠山
の麓日明神は勅請なり後伊勢石清水稲荷かゝ
松尾平野は保延年中七社と号を又一説に法は小七野あり
因幡小野柏野蓮臺野上野平野等の中にあるは神をいはゝ
おのゝ諸願あるこゝのは社おの砂を積て三笠山は狀況
うゝをなり春日新向の標は本も山地なり
今宮は御旅所は雲林院の巽にあり毎年五月七日本社より神輿
遷座あるゝを茶店新をつくる芝居放下師本弓楊弓乃者
絶へて十八日神輿あるひはいとん方なり
上品蓮臺寺は千本通の小頭にあり開基聖德太子なり真後
僧正觀空住職して真言宗とあるゝむ本尊地藏菩薩は
聖德太子の御作なり又弘法大師自作は傳は安堂寛平
上皇は所にあるて密灌を稟めゝ

出 元亨釋書

金山天王寺は北野社東の門通にあり天台宗にして本尊如意輪觀音
は聖德太子の作なり 洛陽名所巡の開基は聖德太子にて則自作乃
像は安堂寛平太子堂の額は釋迦如來轉毫光所上宮太子淨土
中にと書して小松院の震翰なり
紅梅殿は天王寺のおにあるゝにある所菅神の愛し給ふ飛梅は霊神なり
清和院は七本松通一条の小にあり真言宗にして聖觀音地藏菩薩
の二尊は安堂寛平原太京極通春日にあり今清和院御門と號を
明暦年中に此地に移を
長足山上品寺は通正親町は西にあり法華宗にして日像上人は開
基なり祖師堂は安堂寛平日蓮上人の像を畫影にして初め松永久秀
は男右衛門佐久通を侍に佐々木廣次郎者出陣の時に中に懷ゆて
貴狐寛平中に藏む盜人の仏集ともに盤石は如し大に惶に廣
次に懺悔して當宗門に歸仕尊像を仕て終に遂々

七野社

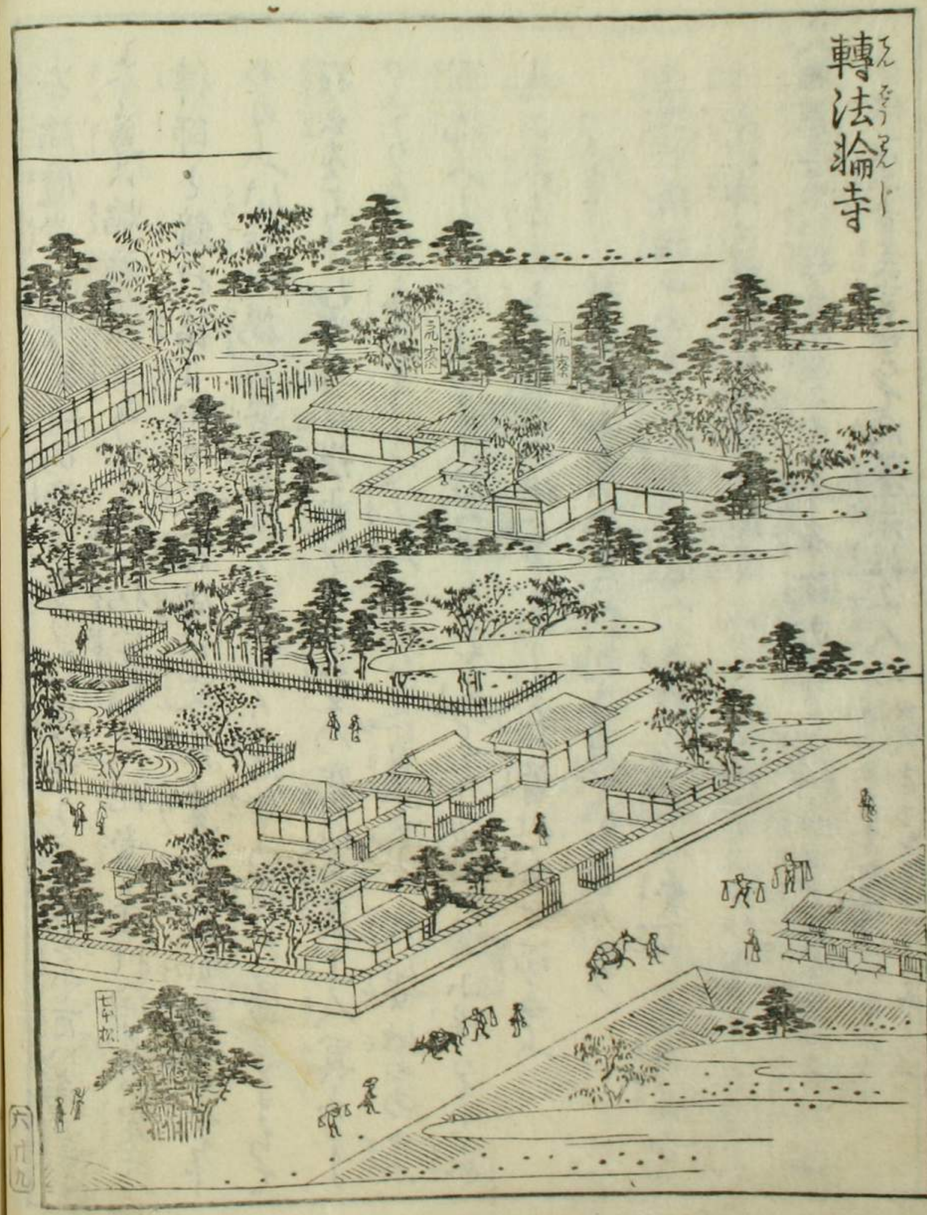


千本焔魔堂ハ蓮臺寺の南ふあり引接寺と号ス宗旨ハ真言ス本尊ハ焔魔大王ヨリて法橋定朝の作當寺ハ開基ハ定覚律師と鐘ハ銘よあり大念佛ハ文永年中に如輪上人そ始めハ山寺ハ橋ふ普賢像といふあり弥生の法花盛りをまちて狂云をそ[illegible]むるこ一説ふむ[illegible]ハ蓮乃窟ハ日藏上人冥土より[illegible]ハ帝いまして上人ふ向ひて宣ふやうハ我婆婆の業因深くして今濁まし[illegible]ハ[illegible]こをあらう汝婆婆ふ帰るべ[illegible]為ふ[illegible]の卒土波の供養をゞしと一首ハ[illegible]

いとうく探義の庵ふ入ぬまハ利利も首陀もかつきりゝ

日藏肝涙袖ふあまり恵海るとゝ人ハ義形ハ上奏ハ奏聞して舟岩ふ[illegible]千本ハ卒土波の建當寺を造立しいらめ[illegible]ふ供養しゝるとゝ大報恩寺ハ引接寺の西ふあり千本釈迦堂といふ本尊釈迦佛ハ安阿弥の作[illegible]の他ゝ宗旨ハ言ふもそ開基求法上人ハ[illegible]

本堂
礼堂
宝庫
鐘楼


転法輪寺
礼堂
本堂
千年松

北野天満宮

内裏北之門
侍所
宮殿
御手洗
多宝塔
鐘楼
大鳥居
大鳥居
神向松
東向松
昆明池

地主社
老公社
十二座社
御本社
摂機
拝殿
多宝塔
八座社
四座社
七座社
砂宮
逆鉾堂
侍所

小野の宮の主殊の小西の方なる天暦年中に聖廟の御うつし法こゝの天社といふ
なるこしらう清原の人陰陽とをうらべ行はるこさま神威あらたにいらせ
小野の宮ふるみてをりなる

後撰 くるべきうれ世の末なれてこしてをのの人神はたゝ落なん　慈園

白川院の御とれあるこさるかられるふりて御こゝろ伝なれ

後拾遺 ゆとはこゝそ頭しかさめよはたゝ続たら偽もくるあるたは　弘浦

結々の時唐鏡なれ宮へまるそのこゝにきる

天満天神宮 中殿 菅原相 中将殿 東間 菅三品嫡子 右衛女 西間 右大臣小方

菅家は僧紀はあまの人乃知るるめれば為記なれ祖は天穂日命
は苗裔ふして歴世こゝしく亞聖なれ御子右大臣名は道真卿なり
いとけなうして額悟をぐれ奥勅四年に文章生に補し海業はこゝろ
ほしく十二年に対策及第し十八ふ侍従にすゝ元慶六年渤海国
は使来朝臨館ふ御ゆく右大臣は詩墨絵なんて称しゝるは風製白楽天に

似こゝろるこゝろや仁和年中に遷侍国守ふ任し寛平年に参議こゝろ云
九月ふ右衛院ふて又十賀を倣しゝゝ九年に中納言こゝ大納云はゝ
大臣絵々昌泰二年二月右大臣ふすみ右大臣こゝ右大臣は右大臣
朝臣時まこゝろは上皇は勅をうけ天子を補佐しまるぬこゝ帝十四ゝて
猶聰明ふく位ふは紀のゝ一日朱雀院 上皇 御所 ふ引まれおりゝ上皇者に猶
のひゝゝは右大臣年こゝ文賢しゝゝ任用せゝ紀屋こゝ右大臣ゝく詩
こゝまよ九大臣大みうこゝまゝ妹の皇后こゝゝ紀ゝこゝひゝゝく漢せまゝ
遂ふ昌泰四年正月廿日大宰権帥ふ左遷しまるれゝゝこゝ延喜
三年二月廿六日配所ふて薨じぬひ安楽寺に葬まる御年五十九ゝ真後
菅霊ふてさまくれるあるしゝべ延長元年に左遷は宣旨ゝこゝ元は官に
ゝ正二位を贈ゝゝ天慶三年七月菅丞右京七条の文子こゝ
御院宣ゝゝ小野右近のゝ場ふ捕こゝのゝ又近に国は社の祢宜長種ふ
託しゝゝ夜ふ大内の小野に一夜ふ松とはせん社とは天満天神と崇

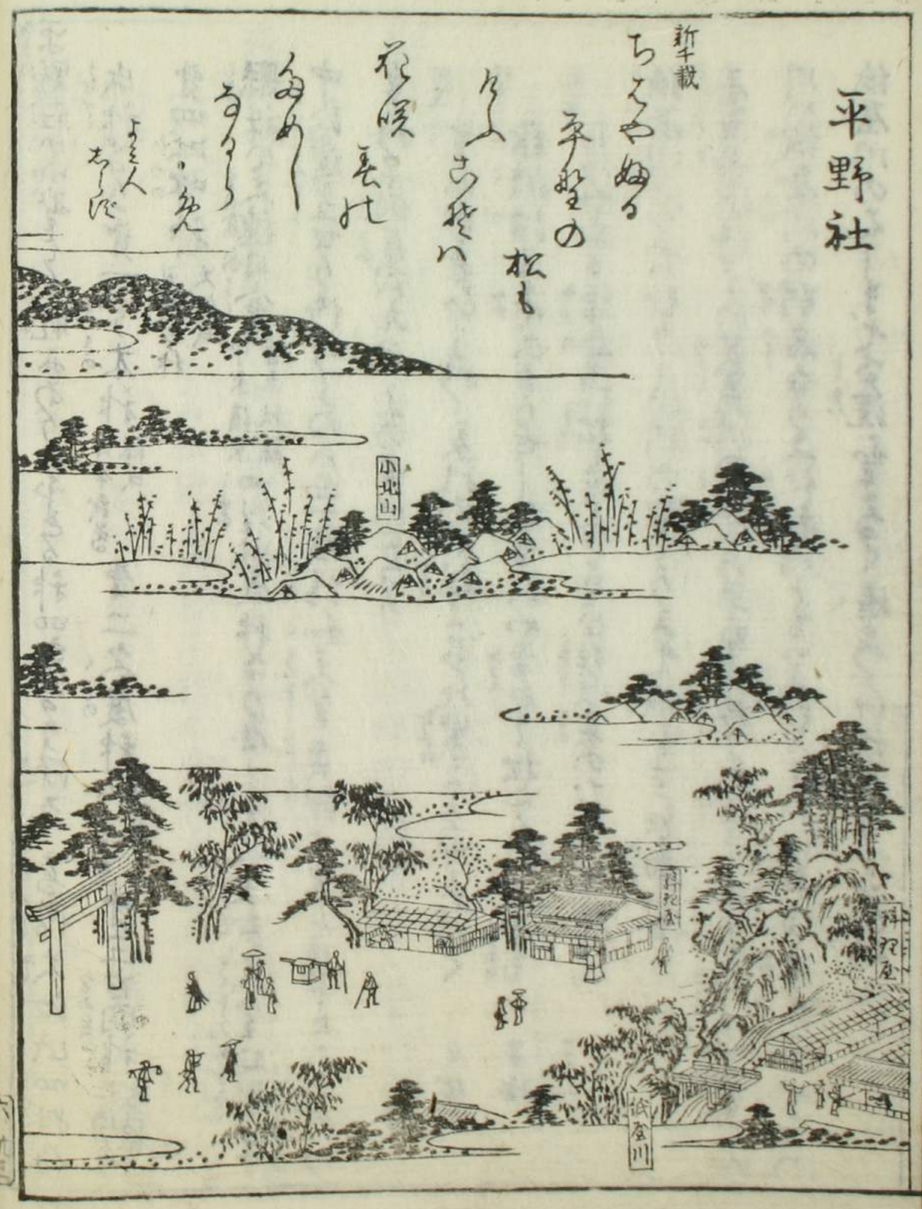
とうりうこに於て胡日寺の僧最珍石京れ文子等と力を合せ霊験仮像
天徳二年石大長師補ゆ成も神威をうやまひ難々あり大度とあらためいと
ときの人今れ小野宮家之一条院の御宇正暦四年又月に勅使を宰府れ安
乗ふ法ゆり大改を位正一位を賜りあり末社ふ船の宮とてハ彼一夜乃
松ゆり出初ふ神秘れ法こ人あり[illegible]や已上 倍来
二月廿又日い菜種の御供れ御神事あり七月七日八月ゆ[illegible]と系弥人四
殿に入神寶出干あり九月四日尚社の祭れあり
東向観音い忌明塔れ西側ふあり本ゆ梅樹の二樹ゆ仏く黄神御ゆ
きざみ世の人十一面観世ゆ寶佛れ二ゆ[illegible]ゆ法寺を
預成就寺い新向松の坪ふあり本ゆ新世ゆ寶佛れ二ゆ[illegible]
足利将軍義滿公ゆ名氏清と内野ふ於て合戦あり義滿討勝ゆ
氏清ゆ二紙浮ゆり氏清い妻双の勇士ゆ人真延悼れ[illegible]ゆ道場仮
建一万神の如典を讀誦ゆ故に経王堂ともいと

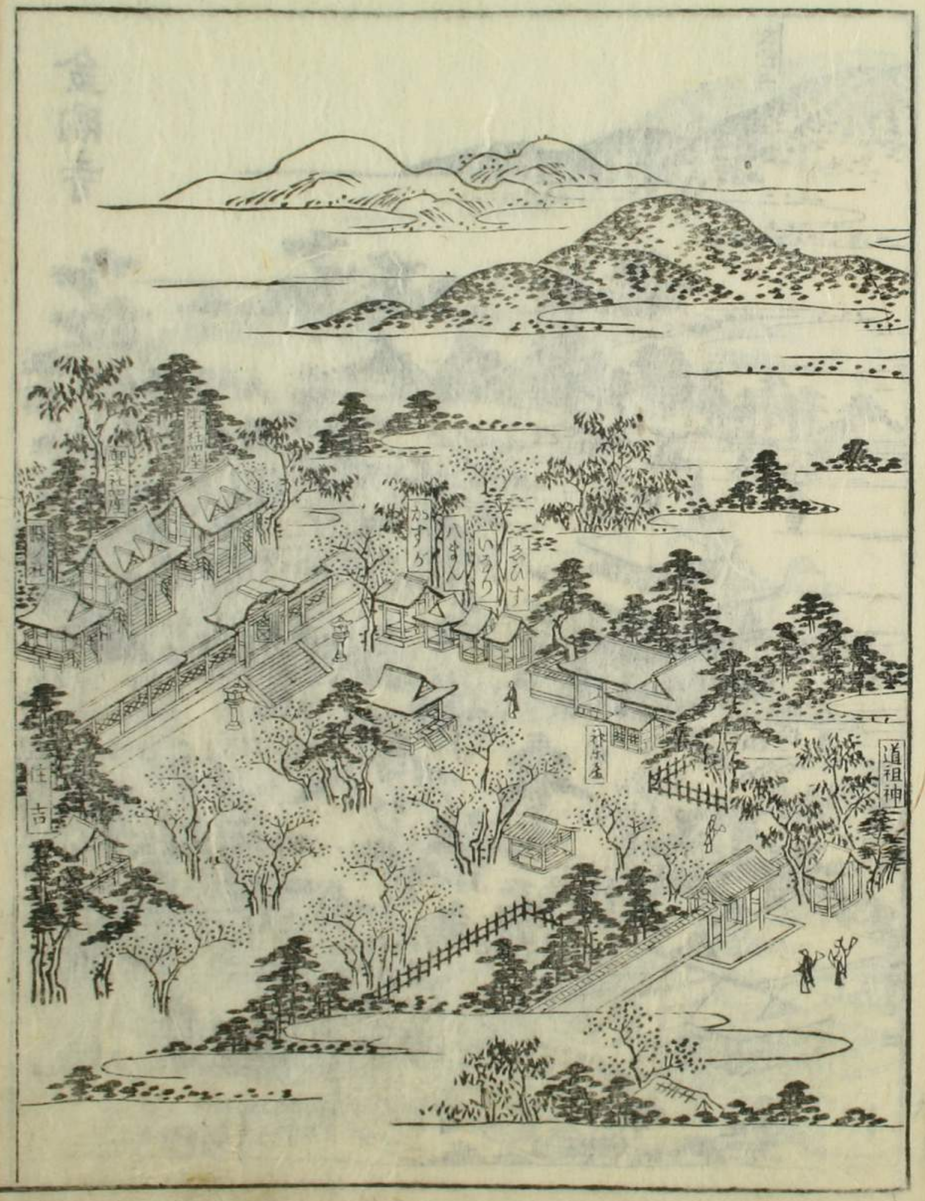
平野社ふ聖ゆり乾ふあり祭ゆ神四座ゆり添平高階大江山四姓乃
氏神ゆり者一今本神日本武尊 添氏
東四所明神 天照大神
縣社い天穂日命 中系清原 菅系秋篠 四姓れ氏神ゆり座しゆい桓武天皇延暦年
中に建立せり御ゆ正一位清和天皇貞観六年七月十日ふさげけ
ゆり例祭い九月上の申れ日ゆり
生きとしけるものこれあやめ格よりて紫ふ立めなく 元輔
難波潟ゆ冬ふりせ[illegible]なるれや平野ゆ松ふ[illegible]白雪 家隆
ちりやうる平野れ松も久ふ[illegible]ゆ表のためゆるゆめ 人
紙屋川とふいむゆ山川のゆ[illegible]ゆり紙をすれ高ふゆり
大賞舎の御ゆ[illegible]れ甚見川の稜ゆ平野の橋ゆり[illegible]ゆ[illegible]
川い紙屋川の別名ゆり又仁和川ともいふむゆ仁和寺廣大ゆて赤い
紙屋川のゆ[illegible]ゆ造ゆつけ作ゆ[illegible]

平野社

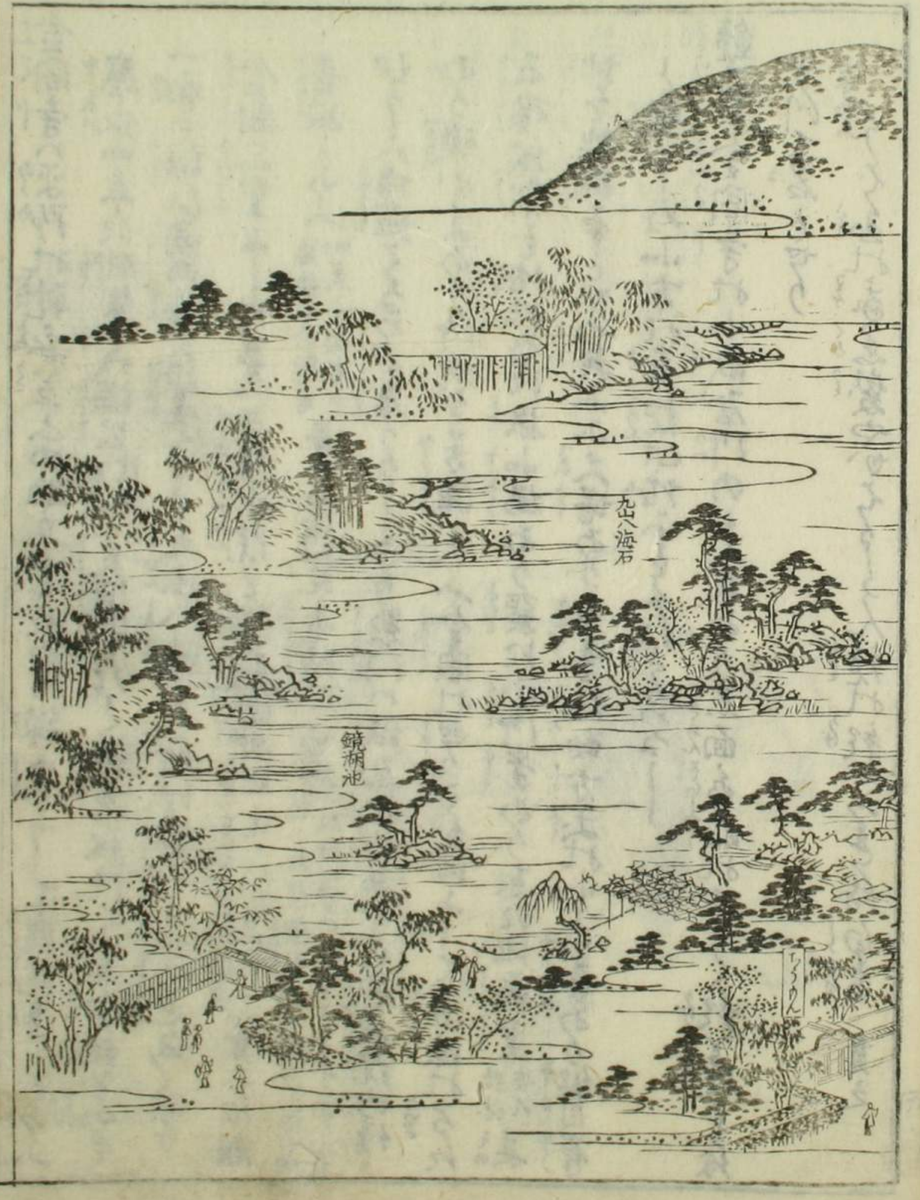
新千載

ちとせをへる
平野の
松も
久しき
花咲
春は
あめ
ふる
雨
よミ人
知しら





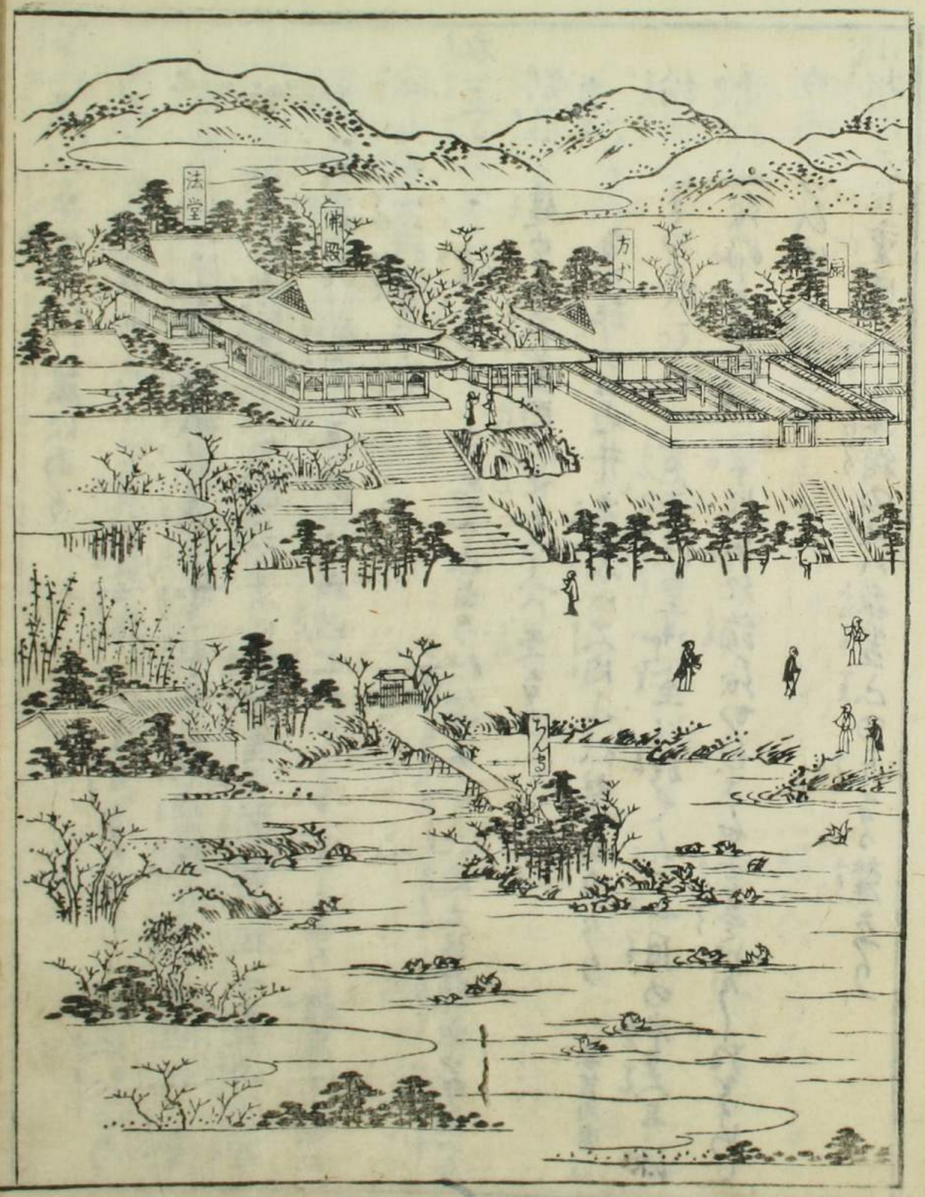
金閣寺



金閣寺八ヨ弥れ乾衣笠山のぬりゆにあり導家ふして鹿苑寺ともいふ
應永四年に将軍義満公鹿苑院殿高閣をたてゝ花見紙はくゝ金鉛をんて
一面ふ粧ひ閣の茅ふ沈香ゝて九山八海とゝるけ作ゝる者ふさゆゝあり
金閣三重ヨして第一を法水院ゝいふ弥陀の三尊観音菩薩の像あり第二を潮
音洞ゝいふ自然本の釈迦四天王を安置第三を究竟頂ゝいふ一枚板四壁の板ゝ金鉛を押
むりゝ境地ゝるゆゝ廣ゝりゝ勅門ハ紙屋川の西今の地蔵院の傍
あり礎今ヨあり所を芳涼ゝいふ金閣れ四ゝる池ゝて芳涼れゝ
反橋紙架を池れ南に拱小橋あり東に地蔵堂粉休その安に其
地を地蔵寺ゝいふ其小ふ大塔あり寺号弥勒方丈れ小ふ一峯あり紙月峯
と號しゆ小方れ峯の釈ゝ地ふをてれゝるハゝ
鏡石ハ金閣寺れ小紙屋川のうゝヨあり石面ヨ晶れ如ゝ新を迷ゝ紙
りゆて名ゝせり
琴物名 うぐゝ玉れ永思鬢やかゝる〻ん鏡れ新ふ〻ま香白書 貫之

鏡石ハ物の新ゝ如くゝ
あさゝらゝる怪石ゝ
唐土ふ仙人鏡ゝいふ石あり
形廣大ゝて石面皎ゝ
ゝくゝの五彩ゝ
ある〻れハ則真形紙あり
りをゝ〻ゝをゝわゝのゝ〻ふ
ゝやいふ〻き

等持院


法堂
仏殿
方丈
厨

龍安寺
浴室

等持院は衣笠山にあり

開基は夢窓國師にして足利尊氏公建立なりいろ〳〵仁和寺乃
一院とうり本尊の地藏菩薩大聖歓喜天の堂鎮守六請明神等
今に在りと雖むりの遺物なり等持院の堅額は相国義滿公筆
足利家累代は昭堂は義照院義政公のいとこ〳〵なり禮果の額は
開山夢窓は筆なり

衣笠山は等持院のうしろなる山なり仁治年中に内大臣藤原家良公
別荘を建ゆへ衣笠内大臣といへは是なり

新撰

衣笠内府

さるのなる都のいね井家宿は大内山は禁なりなり
治掛とういへいむう〳〵寛平法皇御室に於てあ五月の光天は源
雪は雖後好きゆひ山峯に白く絵なりけさ也玄をれ〳〵たとうも
ゆかといひ御〻

小松内大臣重盛小山茸將の地は衣笠山の東なる禁なり

大宣山移安寺は等持院は西にあり

開基は義天和尚文明年中に細川右京大夫勝元とうみ〳〵なり
初は大悲實觀寺の山荘なり法大寺公有公の代細川勝元は地とそ
造りし〳〵なり本尊は釈迦佛大元達摩は像は東西は壇にあり惠光禄師
像細川勝元の像は紙安は堂の内天井は画は東福寺兆殿司は筆〳〵

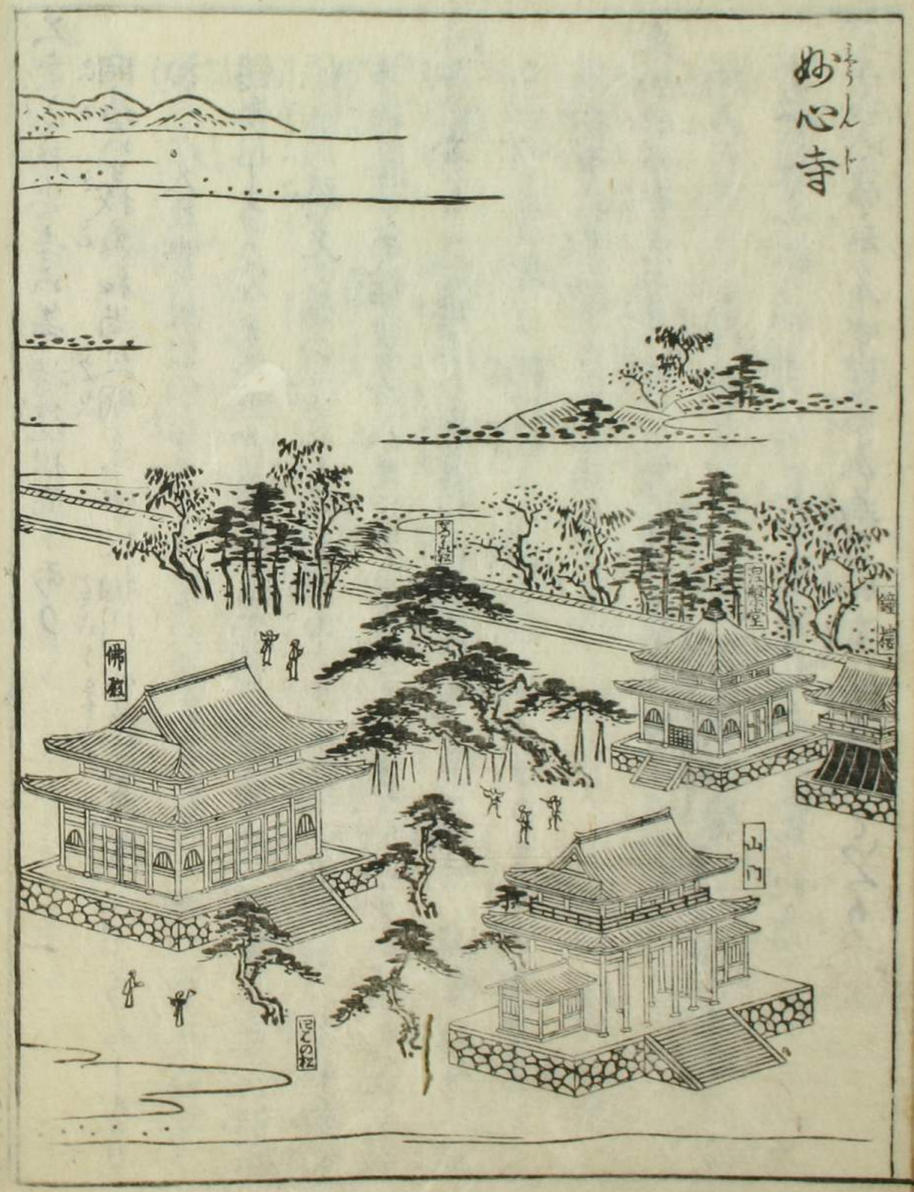
蔵珍
世後題

方丈は勝元の館夫院さいていなる所なり山地は小は衣笠は山紙屋南は遠小園〳〵一陽来復なり温
物数寄なり山地は小は衣笠は山紙屋南は遠小園〳〵一陽来復なり温
気めぐるも早し池は面は水なるむれあり玄冬の蛙は水なるを
移安寺は弘誓寺とく名は高〳〵

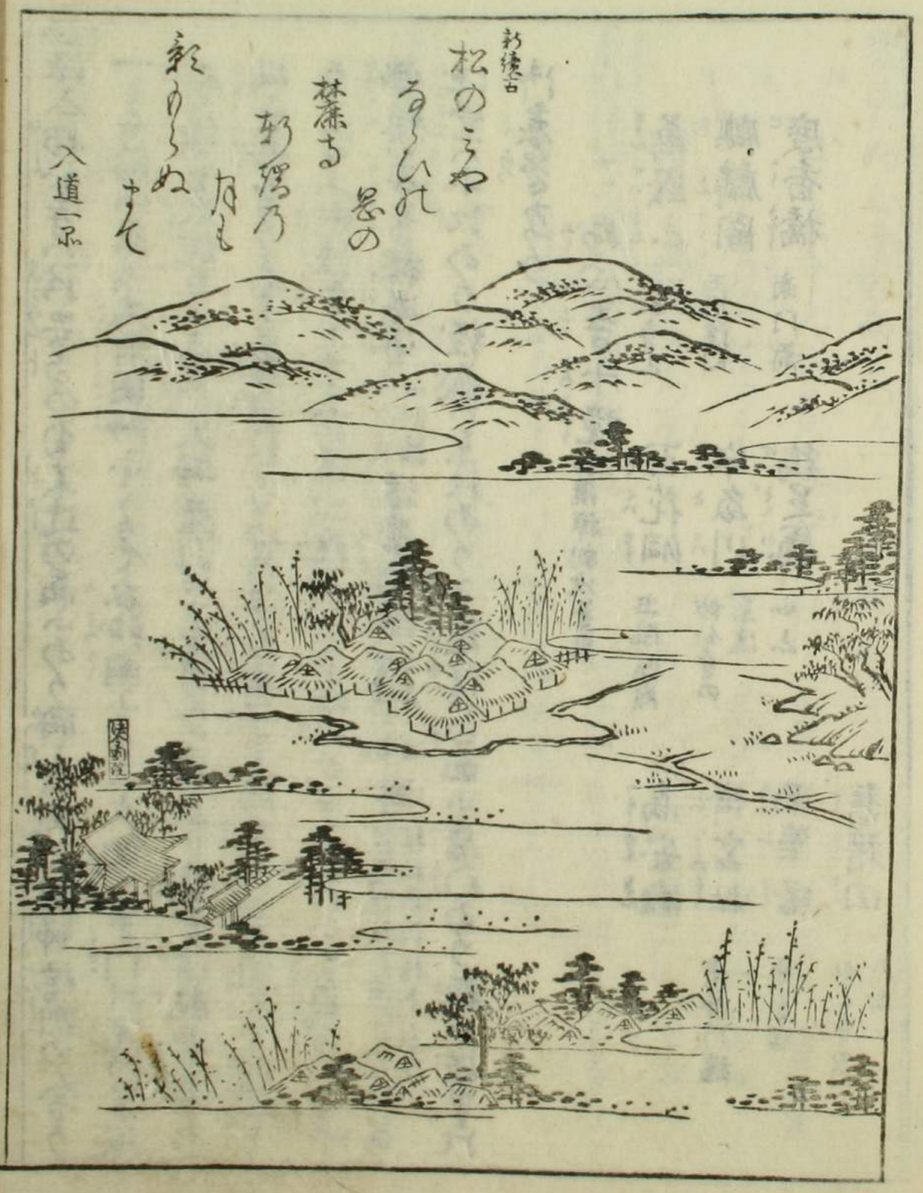
真如寺は衣笠の麓松尻村の西にあり

開基は夢窓国師本尊は釈迦佛仏光國師像は壇下は妻は達摩佛は
夢窓は之新は根は安は初は妻は著尼といへ人なりは者と結て山脇居
といへ廉永年中は高武藏守師直俊造をといへり

庫裏
方丈
法堂


妙心寺
佛殿
山門

雙岡
木付
長谷寺
西光寺


新續古
松のこゑ
ふるひけ
景の
禁ち
新續万
有も
新ものぬ
ゆえ
入道一品
興善院

正法山妙心寺ハ新安井の南木辻の西にあり開山ハ関山国師信州の人なり一とせ洛に来り大灯国師にしたがひて衣鉢を請得たり関山恵玄ハ関の字ハ会得を大悟す宗門大師来りて参ゆかんで関山と號を後醍醐帝乃回に崇すられも尊信ありて其後花園法皇禅苑として関山を住職となし則法皇も方丈の後に一院をいとなみ給ひしを此所玉鳳院といふ

佛殿の本尊釈迦佛 左迦葉 右阿難 達磨臨濟 脇壇の左右 神牌 花園院後花園院後土御門院 後柏原院後奈良院

法堂ハ北にあり経蔵ハ东にあり玉鳳院ハ正面に唐門あり額ハ法皇の御宸筆なり

妙心寺十境 和漢禅刹次第出

萬歳山 仁和寺山
麒麟閣 玉鳳院内
度香橋 南门前
百花洞 玉鳳院内
宇多川 妙心寺の东流
鶏足嶺 小山
高安灘 東外川端
齋宮杜
南華塔 東寺塔
舊藉田 妙心寺の内 花園

雙岡ハ妙心寺の西にあり一二三の岡相並ぶ

風
いらくにならびの岡の神無月秋れさる聲くゆくにぞなる 後宇多院

ま
はなし咲双の岡のまつかげに掛すしぐ夕日乃色ぞうつろふ 為相

日
ふるほく嵯峨のかつらむもまずならびの岡の夜の日にて 為家

兼好法師の旧跡ハ二の岡の西の麓にありしを近世岡の东長泉寺にうつさる

ならびの岡に無常所まうけてかたはらに桜を植させて

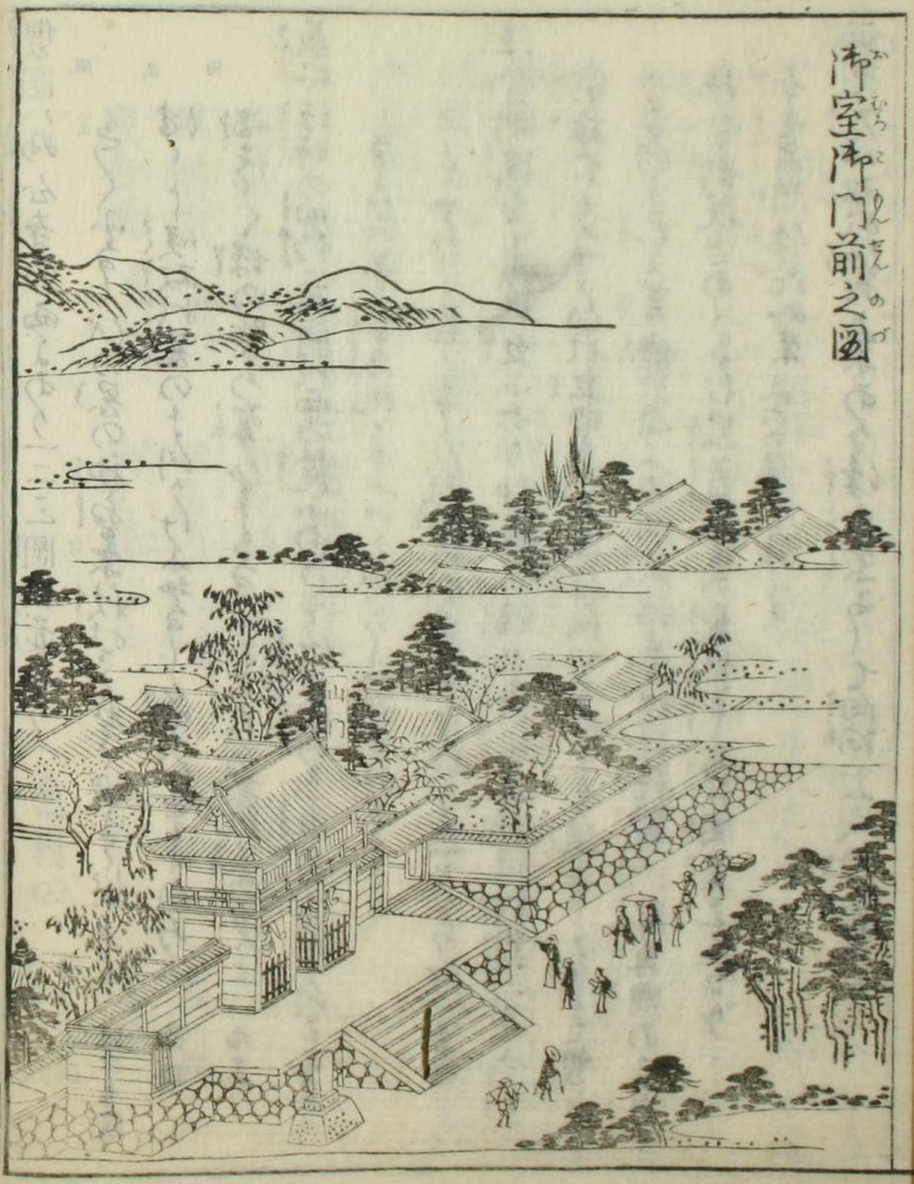
ちぎりおく花とならびの岡のへにあはれ幾代の春をすぐさん 兼好

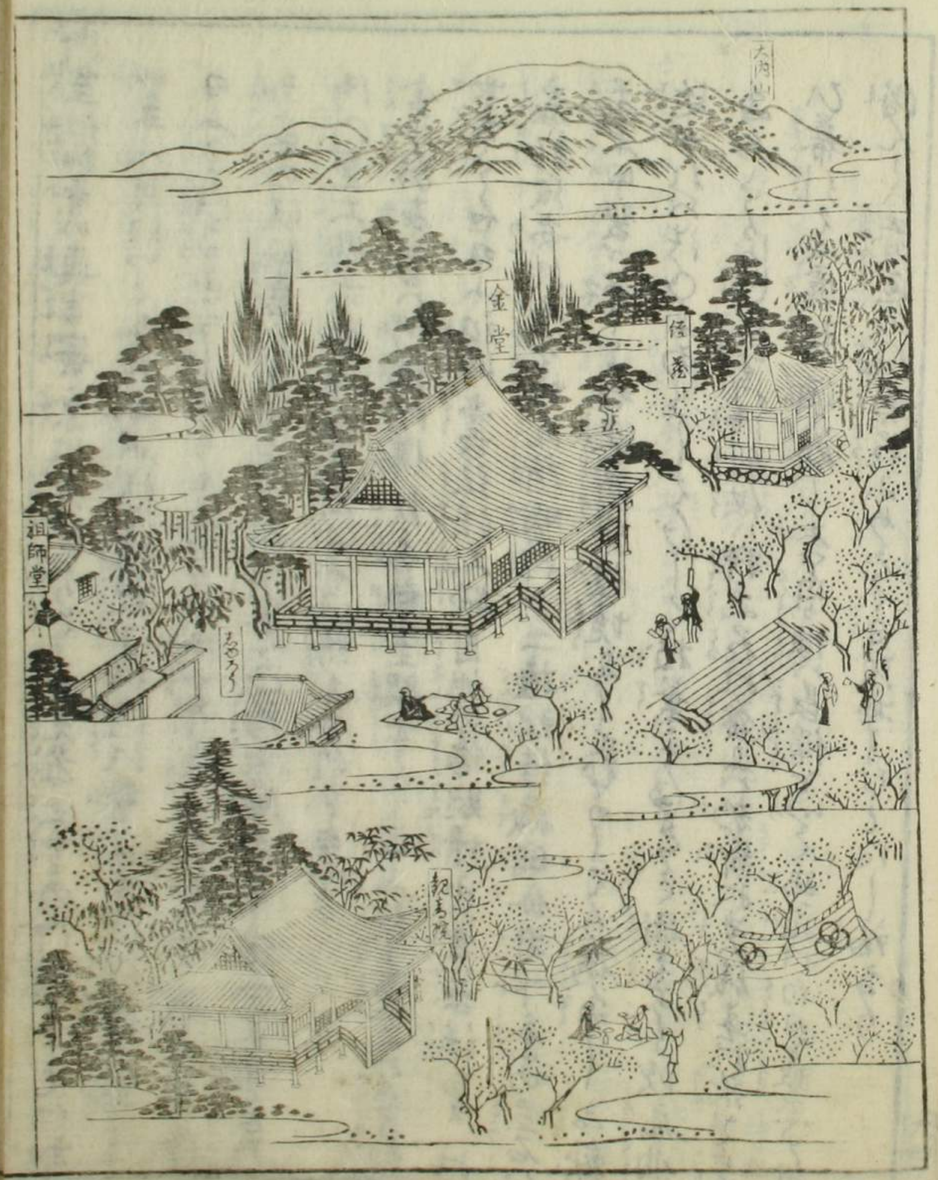
法金剛院ハならびの丘にありむかし清原真人夏野の別荘之其子太々公もならびの丘のうへに山荘をいとなミて後寺として雙丘寺とあり久しく已に荒廃に及ぶ所大治年中に待賢門院再興ありて號を法金剛院とあらたむ宗旨ハ四宗兼学中興ハ円覚上人なり

本尊ハ阿弥陀如来 丈六の像春日作とぞ

西光庵ハ双れ池の上にあり浄土宗にして向阿上人開基なり

御室御門前之図




大内山
金堂
位牌
祖師堂

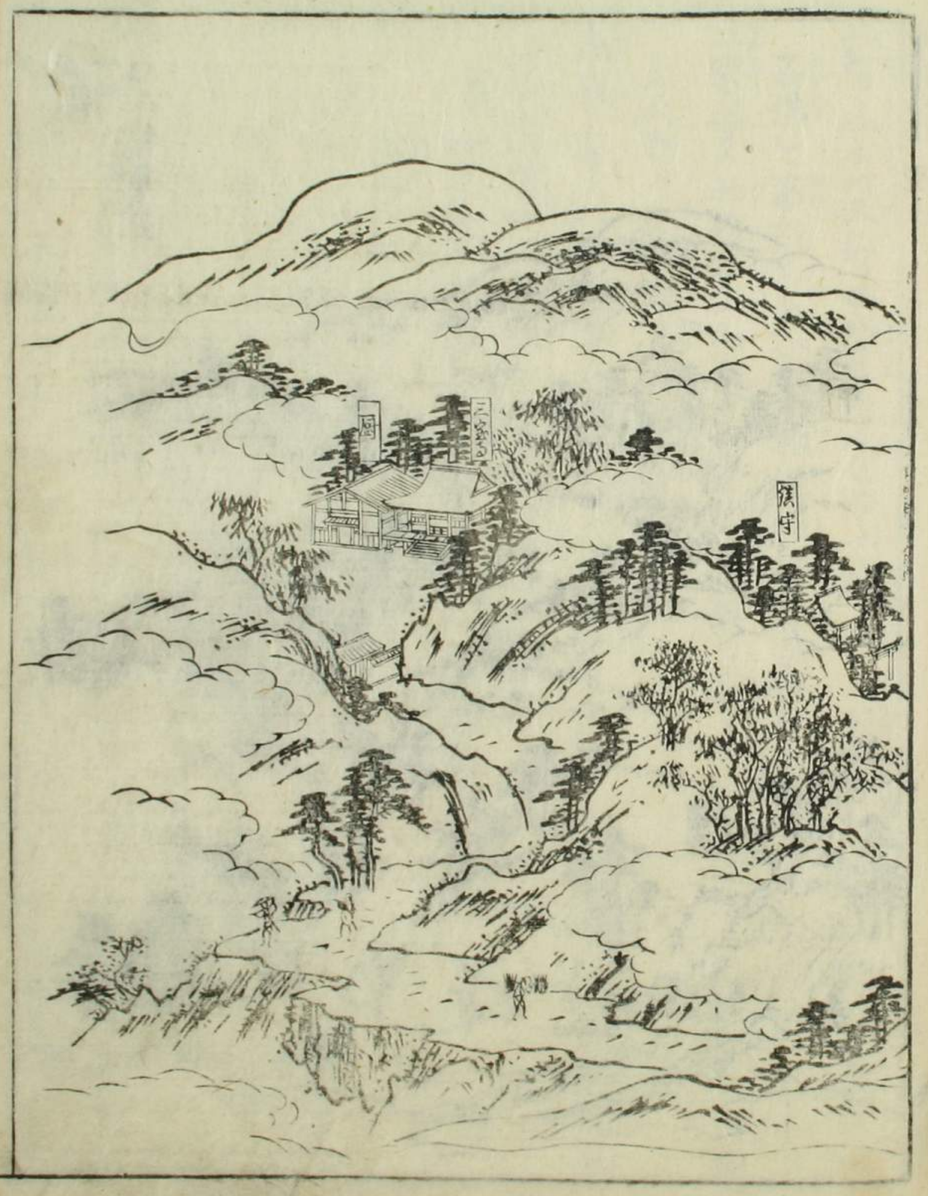
御室仁和寺
八幡宮

御室仁和寺は真言蜜教なれ是地なりしを光孝天皇の御願にて仁和
四年八月にいとなみはじめ代々法親王御住勢あて御門跡と称し
ゆゑ山ちかふしてはりくるとりや御室と号とかい宇多天皇御
出家の後延喜元年十二月に御室と山所を建させ給ひ之最乃
御門も二大暦六年御出家なりて山所あらためつゝ
金堂主の本尊は阿弥陀佛観音勢至脇士しゝ人観音院あり観
世音こゝ也ゆゑ祖師堂に弘法大師自作の像脇壇に八宮東法皇
宸筆紙安置之塔九所明神十二権現経蔵鐘仏牙下乗の立石は
為本甲斐が筆とゝやう丈當山は住境ゆゑ山嶽
近くれば住ゆゑあゝしてげゝく枝葉を垂てく樹高ゝ波屈曲
あゝうるはし弥生れ御願供は猪之花盛は初鄙れ光綾表れ錦を爭
ひ幕うち人虞松が酒小姫し李白が恨は長縄をいく西花れ白日を繋る波
浮んとい春色の風客花ふめくく日波却むと日し論なり

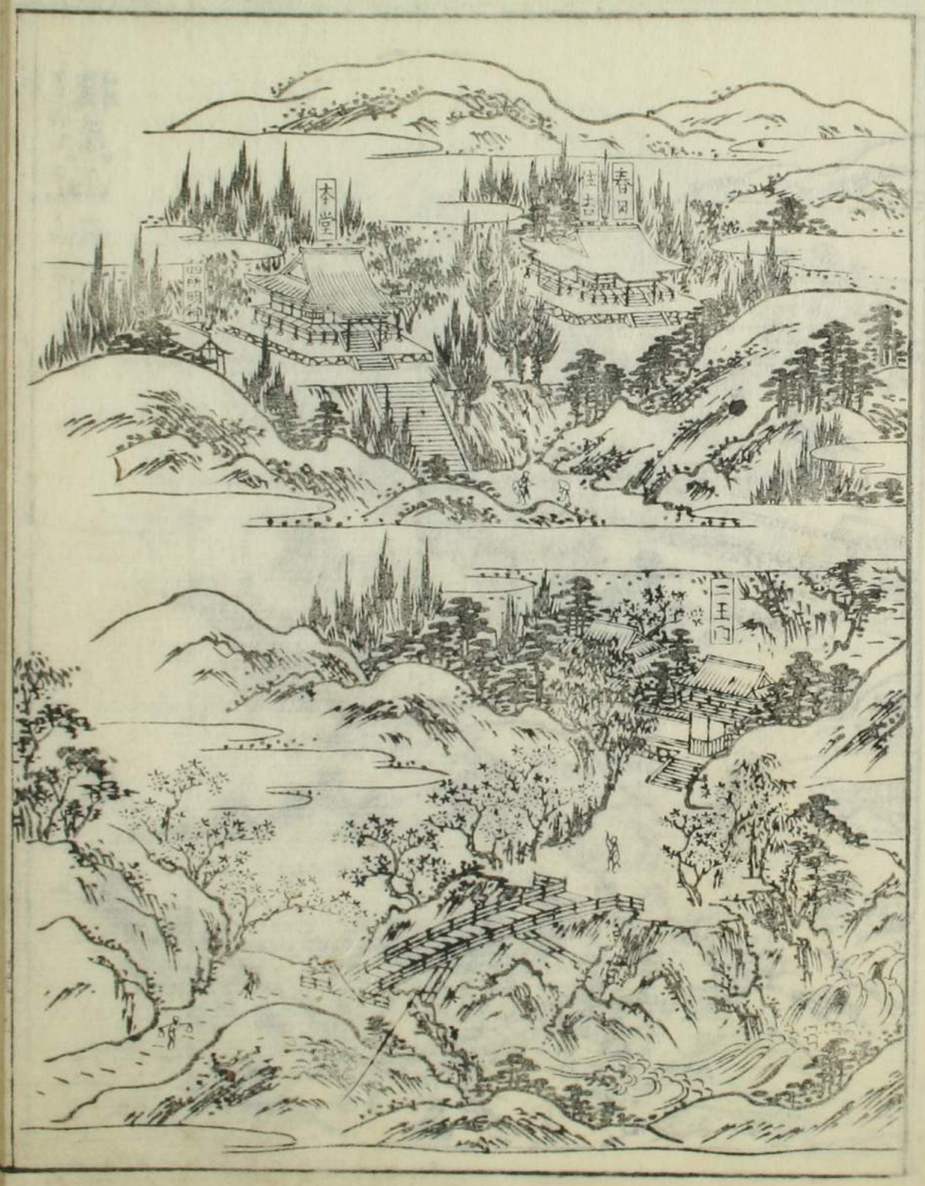
鳴滝は仁和寺の西にあり此所は祇園社名産なり
山名 志ゞしきそゝ人あつみにせられゝそは泪やなる滝乃川 西行
妙光寺は鳴滝の里れにあり神は岡大臣藤師継の長男右少将忠孝 幼名
追福のためにふれ別業紙寺とゝし妙光禅寺と号を開基を法燈
國師あり本尊は釋迦佛と安ど寶陀岡の額は本房和尚の筆ゝ紫金
憂の旧地はうゝしろの山上にきる印金堂は堂内れ四方類布金紙押く
當所の荘園ゝくまする
西方の法藏寺は英彦宗派みゝて百拙和尚の開基なり日所西高寺と
いゝは浄土宗ゝて本尊は阿弥陀如来は恵心僧都作なり人なり
五嶽ふふは般若寺あり開基は観賢僧正本願は大江玄湖朝臣なり
宗旨は真言古義みゝて本尊は文殊菩薩阿弥陀堂には弥陀観音
勢至のこゝるゝ也人観賢僧正の禅ゝは小の方なるふまあり開仏井は
堂れうゝしろにあり

妙光寺
泉谷西壽寺
法藏寺

般若寺
三宝寺



五智山ハ又多のめ来たるせの人山上に石畳の五智ある不動紀考地獄
石佛をあらはされ皆草弥法師はきたるみの人なり
三寶寺ハ西の山上ハありて日蓮宗なり本堂ハ南向みして釋迦堂ハ山
上にあり開基ハ日淺上人なるを
泉殿しらんいぬ光ると般若ちくの間にありむらしまる羽尾れ御子覺性法
親王ハ所に御室といとうこ位せの人なり
山穐記 姉の紙屋ゐ故文のうあに併るすせんして弘教へまりしに
髪尾れ松原れ人孤きくくそ
御集
ありしよの松れみとりの色もすで憂身ハ教む法ならろ　寺覺法親王
御茶みまりつ行て
日
とろかくて清にしあるこ紙きそれいこ事ホせ尼庭れ茶ひり　は
平間の八幡宮ハ弘法大師の勅請なりかくられ大石あり里人ハ神とそ尚れる
梅畑若妙ハ義厳宗ホ寺にて梅尾ホ屬と若妙神の社ゑせの人里ゑ若妙


本堂
春日
二王門

栂尾山高山寺

槙尾山西明寺
坊中

高雄山神護寺

梅尾ふるふるい華厳宗ゆゝて存るい釈迦如来明恵上人れ開基之紀門ゆ開祖
の今より九歳れ付る雄ふれ上元ふ後ひ俱舎頌をこゝゆ学ぶ学ぶ者ふ多く雑
華経景雅ふるゝひ又弥陀利ふ帰し日ゝに九字の呪を唱ふ十六歳ゝ利法
東大寺れ戒壇ふ於て受具し興然阿闍梨ふまゝるひ両部れ密教をうけ
夫ゆ梅尾ふ住賢首宗をこゝるゆ又和歌れ乃ふもふ深く自選心集ゝ云ふを書
ゝと集む彩勅撰ふも上人の歌あまゝ入給ゆ宮れ四年正月十六日寂に
栂尾ふ示寂ふ院い真言律ゆゝて開基い智泉法師ゆゝ存るい釈迦如来
明恵上人の御ゆゝ和歌れ聖徳太子れ法華経ゝ云ふ

雅経

えらこそも誰ふ問ん死ぬるあまれのゆゝ
る雄ふ神護寺ゆ光仁帝れ宇和気の清麿奏同し建立ゝ寺ゆ初い
神願寺と號しぬ淳和帝れ字天長二年ふ空海ふ湯ゆ神護寺祈願言ゆ
とあゝゝ号れ賜ふ詔を下して金剛定寺の額を空海和尚ふ云しめんと
勅使を立せゆひるゆゝ又月雨ゝて清滝川の水増りて高雄ふれゆゝ

止ゝゆ勅使則川のゆゝふゝ
めゝて学ふ書ふ書紙ゆゝ持ゆる額ふ向ゝて来ゆゝれ墨書れゆゝ
額の面ふ忽ち金剛定寺の四字現ゆる大師行状記 額書石 石面ふ窪ゆ額を
金堂れ本尊薬師如来講堂れ文殊ゝ弘法大師の御ゝ搦門乃
額い仁和寺光信法親王れ御筆納涼坊ふい弘法れ御筆安倍文殊ゝ
れ画像もあり鐘楼い金堂れ良ふゆゝ建れ然い鐘ふ定宮郷 庫の河い
橋廣相筆者い菅原敏行ゆる星宿世ふ三絶と號を存朝れ名器り
しゝ文ゆゝ数ものゝ八幡文い経蔵れ巽ふゆり護法れやゝゆい和気
清麿れ霊をまゝ祭ゝ
ひ所いむゝゆゝ記れ名所ゝ奥の地義院ゆゝ下る渓をゝるゆ
文面の杉のをひ水ゆゝ紅ふ紅ゝ夕日のやゝゝ紅ゝゝゝ錦と
さゝゝゝゝ泳ゝゝひやゝれ停車坐看楓林晩ゝい杜牧が詩ゆ

都名所圖會巻之六 大尾

鈴鹿文庫

古今遷建曰帝都天子之居天子以
四海為家豈有常處哉惟其所在即
以為都都者人之所都會云爾以衆
大而言謂之京都周公相成王都洛
邑諸侯藩屏四方朝明堂後漢李唐
亦都洛陽倣

本朝聖主之例以京師稱洛陽歟抑
平安者天下之中而有德無窮之都也從
長岡之遷都已来歴千載而賢聖在
位景星見於天由是庶民浴泰平之化
時遍覽四方山川之勝裁配畫工信繁
令模之還尋昔人之経蹟詳記其由縁
全之名曰都名所圖會嗚呼聆左思

之博才蜀都賦歴年所況予撰不渉年
寡聞淺識伊雪其恥後君子正遺漏
俟澡洗而已季秋十三夜於斑竹亭書
皆安永九年也

選者　平安　秋里湘夕

京西
平田

名所記總目録

山城名勝志　全部二十二冊　歌人英哲の寺の經歴を数百編の引書故あるを詳記し詮索をあくまで助とするのみなり

山城國中社佛閣の傳記を考松藤の書

山城國中社佛閣名所旧跡を考えるのまに弦みうつしるくつり

山城國中社佛閣名所旧跡を考えるのまに弦みうつしるくつり

山城名所圖會　新板古板全部六冊

山城名所圖會六卷の圖ふるいるほをすの見えの者を絵文者ふ出て寄る記を改めるつしく風景

同拾遺　全部五冊

山城名所名寺尚六卷の圖ふるいるほをすの見えの者を絵文者ふ出て寄る記を改めるつしく風景

都細見之圖　情中折本一冊

山城一国山川道路村里一つも洩れ赤き部をもつて行程大小の道を分ち城ハ郡所山坂奇景記名所旧跡流場名迹名所一社仏閣名所旧跡神廟ハ名所名所名所

都名所名所　情中小本一冊

山城国の名所名所旧跡を考えるのまに弦みうつしるくつり

花洛細見圖　折本十五冊　繁華の社仏閣

山城国中社仏閣の名所名所旧跡を考えるのまに弦みうつしるくつり

出來秋京土産　全部　七冊

山城国中社仏閣の名所名所旧跡を考えるのまに弦みうつしるくつり

京師見覽　全部　拾五冊

都案時記　全部　七冊

京ろくん屋　全部　六冊

都なごの名　絵本　二冊

増補新板 大日本國花萬葉記　全部　廿一冊　箱入　近刻

雑波丸綱目　全部　七冊

摂州名所志　全部　廿冊

泉州志　全部　六冊

東海道名所圖會　全部　六冊　近刻

大和名所圖會　全部　七冊

河内名所圖會　全部　四冊　近刻

和泉名所圖會　全部　四冊

摂津名所圖會　全部　十冊

東海道記行　全部　五冊

西國船路記

雑波おうな　絵本　五冊

畫工　浪花　春朝齋竹原信繁

彫工　京師　永島六右衛門　山本長左衛門　伊澤又治郎

同　浪花　藤江喜平治　藤木金兵衛　坂本新輔　山本清右衛門

安永九年子中秋新板
天明六年午初春再板
寺町通五条上町
皇都書林　吉野屋爲八梓

松山齋藤彌右衛門